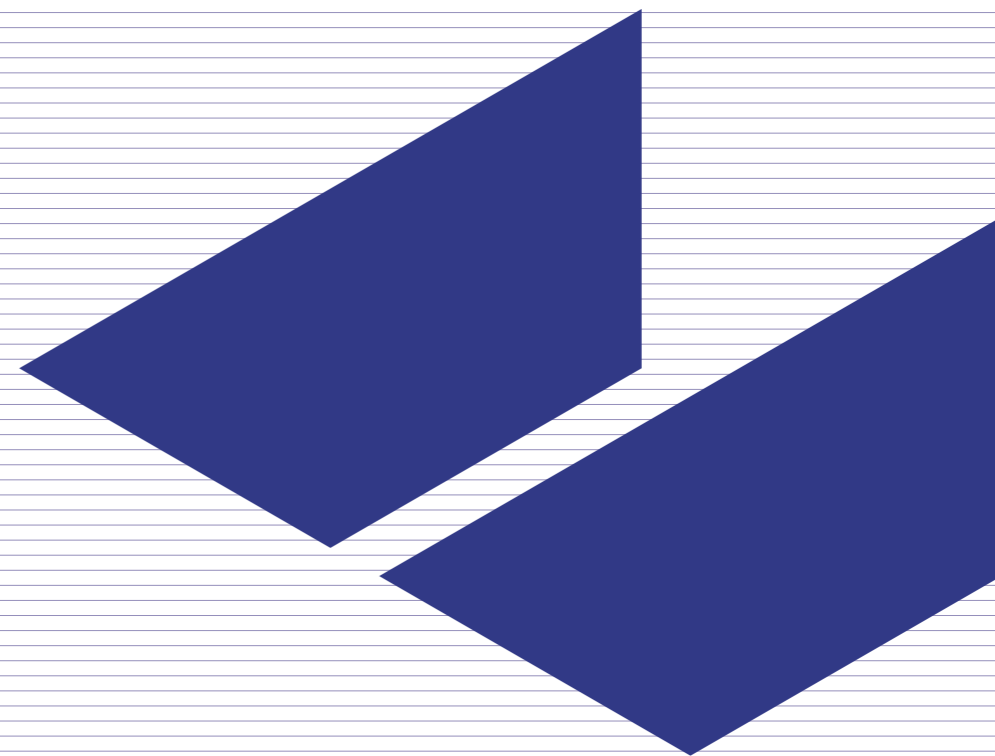
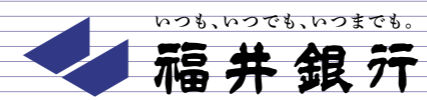


FUKUI BANK REPORT
2020.3
統合報告書
(ディスクロージャー誌2020[本誌])



目指すのは 「地域産業の育成・発展と 地域に暮らす人々の豊かな生活の実現」

創立当時から大切にしている 地域への変わらぬ想いを込めて
2015年に3つの理念を制定しました。

Mission

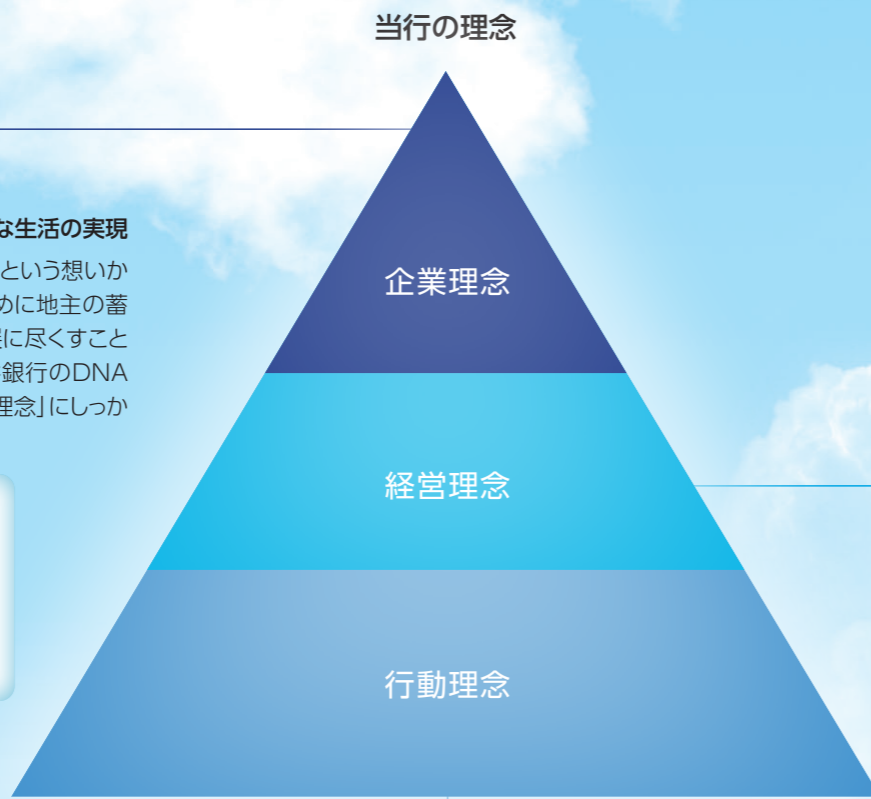
存在意義

地域産業の育成・発展と地域に暮らす人々の豊かな生活の実現

福井銀行は、明治32年「地域産業の助成こそ使命」という想いから、当時盛んになり始めた繊維産業を育成するために地主の蓄積した資本を結集して設立。地元を愛し、その発展に尽くすことを第一義とする無私の精神は、創立当初から福井銀行のDNAに深く刻まれ、120年たった現在も変わらず「企業理念」にしっかりと受け継がれています。

いつも、いつでも、いつまでも。

企業理念を原点とした「地域とともに」という福井銀行の想いを表した企業スローガンです。全職員から公募を行い、1,600を超える作品の中から採用されました。



Action

役職員の日々の行動

誠実 × 情熱 × 行動

「誠実」…相手を大切に思い、
「情熱」…強い信念を持ち、最後まで諦めず、
「行動」…実際の働きで示す

今日の誓^{*1}

- 一 自己を反省して人の悪口を言はざること
- 二 四恩^{*2}を感謝して吾職務に精励すること
- 右 今日一日の務めとして実行を誓ひます

^{*1} 「今日の誓」は創立者・市橋保治郎が禅の思想に基づき提唱したもので、福井銀行職員は、この「今日の誓」を行動のバックボーンとして業務に精励しております。

^{*2} 四恩・・・先祖の恩、国家の恩、社会の恩、神仏の恩

Commitment

経営のコミットメント

トライアングル・バランスの実現

福井銀行グループは豊かな地域社会の実現のために

- 「職員の満足(働きがい)」
 - 「お客さま(地域)のご満足」
 - 「株主の方々(投資家のみなさま)のご満足」
- をバランスよく高める経営を実現します

Contents

- 3 福井銀行のあゆみ
- 5 福井銀行の価値創造プロセス
- 7 中期経営計画
「企業理念」の実現に向けて(第1章)～より早く、より深く、より広く～
- 9 頭取インタビュー
- 13 頭取対談
- 15 財務ハイライト
- 17 非財務ハイライト
- 19 法人のお客さまへ
- 25 個人のお客さまへ
- 27 地域のみなさまへ
- 37 コーポレート・ガバナンス

当行の概要 (2020年3月31日現在)

| | | | |
|-----------|---|---------------------------------|------------|
| 名 称 | 株式会社 福井銀行 (The Fukui Bank, Ltd.) | | |
| 所 在 地 | 〒910-8660 福井県福井市順化1丁目1番1号 | | |
| 電 話 | 0776-24-2030(代表) | | |
| ホームページ | https://www.fukuibank.co.jp/ | | |
| 設 立 年 月 日 | 1899年12月19日 | | |
| 資 本 金 | 179億65百万円 | | |
| 従 業 員 数 | 1,366名(出向者、嘱託および臨時職員含めず) | | |
| 店 舗 | 有人店舗数/79か店 | 店舗内店舗数/16か所 | |
| | その他/3か店 | 合計/98か所 | |
| | ※店舗内店舗:他の当行店舗内に併設移転した店舗 ※その他:振込専用支店、ジュラチック王国支店(インターネット支店)、小浜支店名田庄営業室(毎週水曜日(休祝日除く)のみ営業) | | |
| | 店舗外自動機設備/125か所 | (ATM運営会社・セブン銀行・ローソン銀行との共同設置を除く) | |
| 主 要 勘 定 | 預金等残高 | 2兆4,975億円 | |
| | 貸出金残高 | 1兆7,310億円 | |
| | 有価証券残高 | 6,612億円 | |
| 株 式 の 状 況 | 発行済株式総数 | 24,144千株 | 株主数 8,392名 |

編集方針

当行グループは、「地域産業の育成・発展と地域に暮らす人々の豊かな生活の実現」という企業理念の実現のため、当行を取り巻くステークホルダーの満足をバランス良く高める経営に努めており、ステークホルダーのご満足を得るためには、企業情報の適切かつ公平、正確なディスクロージャーが必須なものであることを認識しております。こうした観点から、国際統合報告評議会(IIRC)が発表した「国際統合報告フレームワーク」を参考にした統合報告書を昨年より作成しております。本報告書を通じ、年次業績と中長期的な地域の発展と企業価値向上に向けた取組みをお伝えし、さらなる対話のきっかけになることを目指しております。

また、本報告書は、銀行法第21条に基づくディスクロージャー資料(業績及び財産の状況に関する説明資料)を兼ねています。ディスクロージャー誌としてご利用の際は、本報告書ならびに「FUKUI BANK REPORT 2020.3 [資料編(WEB版)]」(当行本支店で縦覧及び当行ホームページ<https://www.fukuibank.co.jp/>に掲載)をあわせてご覧ください。

報告対象期間・範囲

報告対象期間は、2020年3月期(2019年4月1日～2020年3月31日)です。ただし、必要に応じて当期間の前後についても言及しています。データの集計範囲は、株式会社福井銀行およびグループ会社です。

見直しに関する注記

本報告書には、将来の業績に関わる記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比が異なる可能性があることにご留意ください。

地域とともに、お客さまとともに

福井銀行は、地域の産業を支援するために地元の資本を結集して誕生し、その後、地域から求められるニーズに応じて事業領域を拡大してまいりました。地方創生が叫ばれるなか、引き続き質の高い総合的な金融サービスをスピード感をもって提供し、地域経済の発展に貢献してまいります。

株式会社福井銀行設立

(設立日12月19日、資本金30万円、本店福井市)
当時、盛んになり始めた繊維産業を育成するため、地主の蓄積した資本を結集して設立されました。「地域産業の助成こそ使命」。それが創立者・市橋保治郎たちの想いでした。地域のお客さまのためにできることは何か。その挑戦は100年以上も前から始まっていたのです。



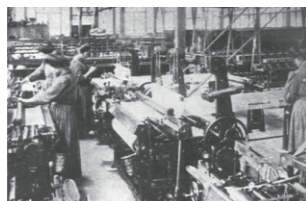
当行株式が東京証券取引所市場第2部、大阪証券取引所市場第2部に上場 (1973年8月両取引所市場第1部に指定)

1972

1899

1924

人絹糸担保金融を開始
全国に先がけて人絹糸と人絹織物を担保とした融資を始めました。羽二重の衰退に直面する地域産業にとっての新たな道を切り開いた事業です。



1945-1950頃

空襲・福井大震災からの復興
「復興は地元銀行から」を合い言葉に、福井銀行はいち早く復興本部を設置。度重なる被災で力を落とした地域経済を立て直しに全力で取り組みました。



新本店完成予定

メインコンセプト「地域をつなぎ、未来をつくる」人が集まりチャレンジの生まれる新本店に相応しい、地域をつなぎ、未来を創る場を目指します。

デザインコンセプト「紡ぐ」

福井の伝統産業である繊維業に着目した「紡ぐ」。小さな物を寄り集めて一つの物を創る行為、人が集まりつながる様子、歴史を未来へ継承すること等を連想することができます。



2020

2012

「コーポレートブランドマーク」 「スローガン」新規規定

2014

バンコク駐在員事務所 開設

2020



福邦銀行との地域経済の発展に向けた包括提携

本提携の名称は「F(エフ)プロジェクト」としました。福井銀行と福邦銀行が手を取り合うことで福井県の持続的発展に貢献し、福井の未来を創造していくためのプロジェクトという意味を込めています。

福邦銀行との地域経済の発展に向けた包括提携の概要と具体的な取り組み

1. 本提携の目的

株式会社福井銀行および株式会社福邦銀行は、共に長きにわたり、福井県を主たる営業基盤とし、地域のみなさまに支えられながら活動してまいりました。両行は今後においても福井県の活性化をその使命・役割とする地域金融機関であり、両行相互の強みを活かし、お客さまの成長、発展のためこれまで以上に質の高いサービスを提供していくこと、また目前に迫る地域活性化の機会を最大限に活かし、地域の持続的発展のため両行が連携、協働していくことを目的に包括提携を開始しました。

2. 本提携の主な内容

(1) 業務提携

2019年9月の検討開始以降、両行役員直轄の専門部署を中心に4つの分野ごとにプロジェクトチームを立ち上げ、積極的な意見交換と連携・協働に向けた検討を継続的に行っております。

(2) 資本提携

業務提携の効果をより高めていく観点から、両行のグループ化を視野に入れた最適なあり方を引き続き協議してまいります。福井銀行、福邦銀行の2ブランドを維持しながら、それぞれの強みを活かし、一つのグループとして地域経済および両行の持続的発展を目指してまいります。

〈主な提携内容〉

両行が手を取り合うことで地域の持続的発展に貢献し、地域と両行の未来を創造していくためのプロジェクトを推進しています。

- お客さまに対して
⇒ サービス向上検討プロジェクト
- 地域に対して
⇒ 地域経済活性化検討プロジェクト
- 効果的・効率的な業務運営に向けて
⇒ 組織・業務改革検討プロジェクト
- 人の融合、未来に向けて
⇒ ふくい未来創造検討プロジェクト

3. 具体的な取り組み

- 福井銀行&福邦銀行「共催セミナー」
- 有料職業紹介事業への参入
2019年12月に両行で有料職業紹介事業に参入しました。人材紹介業務を通じて経営課題の解決、持続的成長を支援していきます。

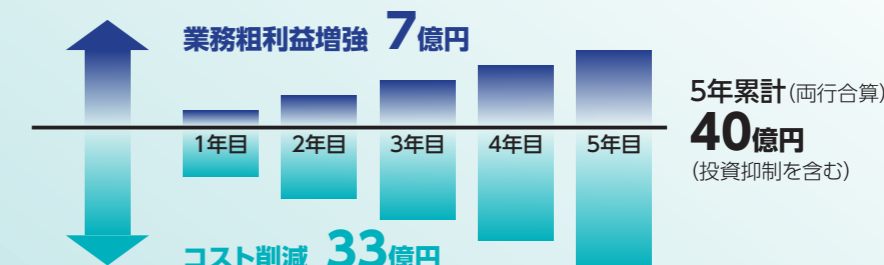


SDGsセミナー&セルブ商談会 (2019年11月)

4. 期待する効果(推計)

お客さま価値向上による業務粗利益増強で7億円、投資抑制で22億円、体質強化によるコスト削減で11億円、合計で40億円(5年累計、両行合算)のシナジー効果を見込んでいます。

- 共同店舗の設置
2020年5月にBANK IN BANK形式で福井銀行小松支店内に福邦銀行小松支店が移転オープンしました。路面店舗1階に2行が同居する全国初の取り組みです。
- キャッシュレスの推進
ふるさと県民カード「JURACA」の共同募集を行っています。



福井銀行の価値創造プロセス

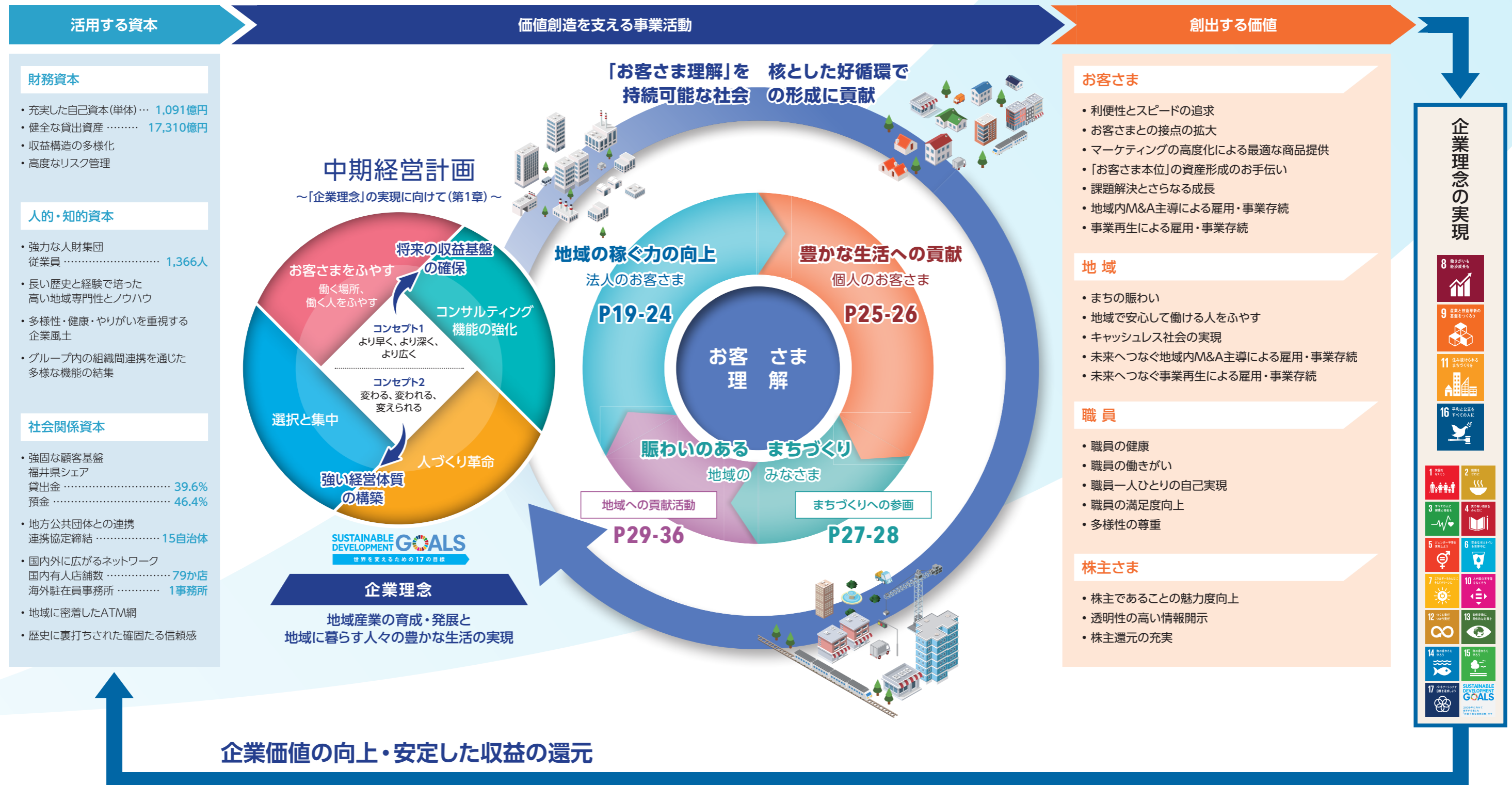
福井銀行は、企業理念として「地域産業の育成・発展と地域に暮らす人々の豊かな生活の実現」を掲げています。

企業理念を実現するため、経済や社会の環境変化に伴って

多様化・高度化するお客さまのニーズをしっかりと汲み取る「お客さま理解」を経営戦略の軸とし、

- 法人のお客さまには「金融」「成長」「改善」「再生」等の各種支援
- 個人のお客さまには「資産形成」「資産運用」「生活利便性向上」等の各種支援
- 地域に対しては「まちづくりへの参画」と「地域への貢献活動」

を通して、お客さまならびに地域の未来(価値)の創造を目指します。また、これら価値創造プロセスをもって自ら企業価値の向上を追求し、株主にとっての魅力(価値)と職員の満足度(価値)を高めていくことで、事業活動を将来にわたり継続・深化させながら、「持続可能な社会の実現」に貢献します。



中期経営計画

「企業理念」の実現に向けて(第1章)～より早く、より深く、より広く～

企業理念を実現するために、『中期経営計画』では職員一人ひとりへのさらなる浸透をはかっております。

「より早く、より深く、より広く」を合い言葉に、地域とお客さまの成長を目指し、これまで以上に取り組んでまいります。

また『中期経営計画』の位置付けを「地域とともに、お客さまとともに、時代の変化に合わせて成長する期間」とし、社会的潮流を捉え、下記4つのテーマのもと、当行自身も変革しながら企業理念の実現のために行動してまいります。

中期経営計画の概要

| | | | |
|----------|----------------------------------|-------------------|-----------------|
| タイトル | 「企業理念」の実現に向けて(第1章) | | |
| 期間 | 2018年4月～2021年3月 | | |
| 位置付け | 地域とともに、お客さまとともに、時代の変化に合わせて成長する期間 | | |
| 2つのコンセプト | より早く、より深く、より広く | 変わる、変わる、変えられる | |
| 4つのテーマ | お客さまをふやす 働く場所、働く人をふやす | コンサルティング 機能の強化 | 選択と集中 人づくり革命 |

4つのお約束

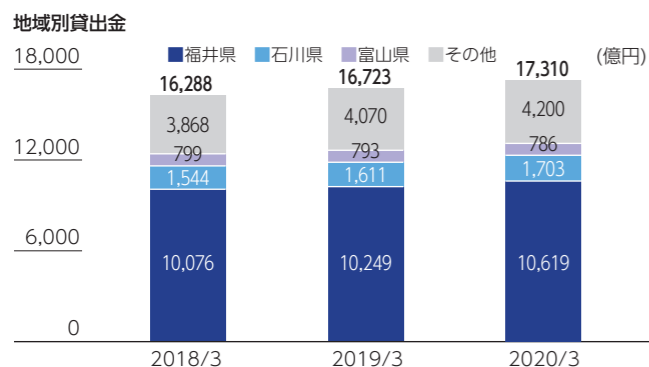
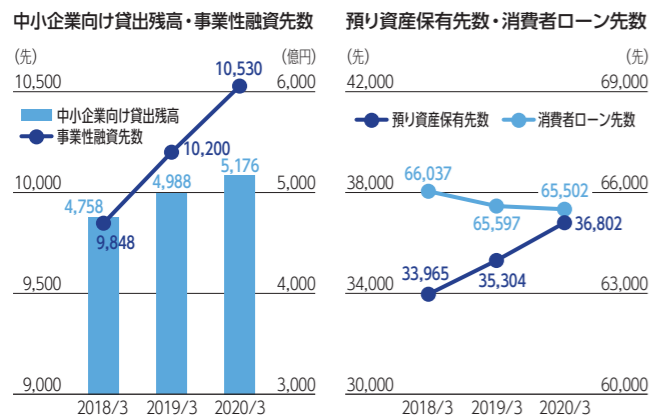
- お客さまのご相談に迅速に対応します(より早く)
- お客さまのお悩みに誠実に寄り添います(より深く)
- 地域に対して積極的に支援し続けます(より広く)
- 上記の3つに対して、「誠実」に「情熱」を持って「行動」できる人財を育てます

4つのテーマの取組経過・成果

1 お客さまをふやす 働く場所、働く人をふやす

お客さまをふやすために、お客さまの「真のニーズ」を把握し「最適な解決策」の提供をすべく、営業店の営業人員の増強によるお客さまとの接点の拡大と、コンサルティング人員の増強により、コンサルティングサービスの充実を行いました。

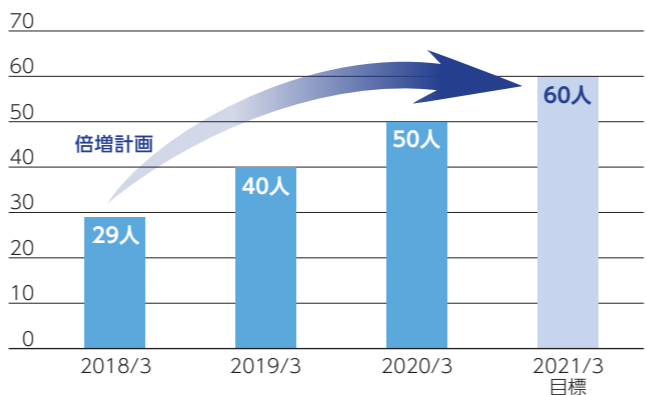
これにより、事業性融資先数、中小企業向け貸出残高、預り資産保有先数が増加いたしました。また地域別貸出金では、富山県は減少したものの、福井県・石川県が増加したことにより、全体残高は増加いたしました。



2 コンサルティング機能の強化

より早く、より広い視点でお客さまをサポートするため、2018年4月、本部に「コンサルティンググループ」を設置いたしました。支援態勢の強化を図るべく「本部コンサルティング人員」の増強と質の高い「コンサルティングサービス」を充実させることで、各種課題解決を実現しております。

本部コンサルティング人員数



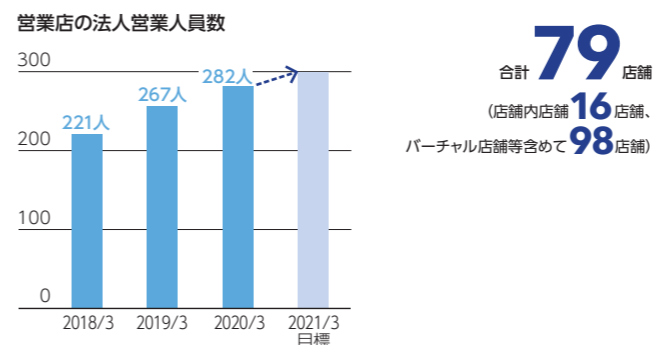
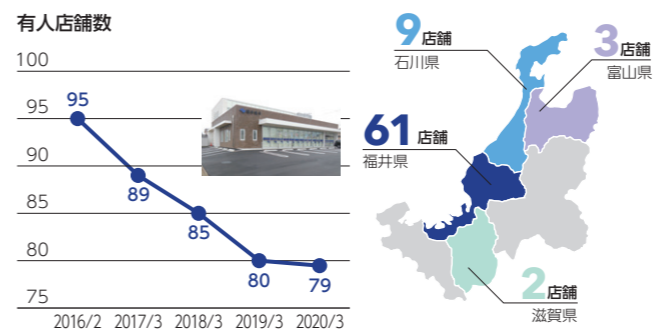
コンサルティングサービス

| | |
|------------|--|
| 経営改善支援 | 経営改善計画の策定支援、資金繰り改善など経営環境に応じた融資対応を実施しております。 |
| 事業承継・M&A支援 | 有償コンサルティング業務の取扱いを開始し、コンサルティング契約・アドバイザー契約を受託しております。 |
| 医療介護 | 経営課題に対して、営業店と本部専担者が連携し、外部専門家を活用して解決に向け対応しております。 |
| 法人保険 | 保障を活用した経営課題解決を実現しております。 |
| 相続・資産運用 | 信託・保険・仕組債を活用した課題解決を実現しております。 |

3 選択と集中

成果を出し続けるための最適な経営資源配分として、店舗内店舗方式により有人店舗網の集中を行うことで、「営業力」「コンサルティング能力」を強化すべく、営業店の「法人営業人員数」の増強を行っております。

また、生産性向上による営業活動強化策としては、個人ローン申込みや預り資産申込み受付のタブレット化や、シンプルでわかりやすい住宅ローン新商品の取扱いを行い、業務のスピードアップとペーパーレスを実現いたしました。

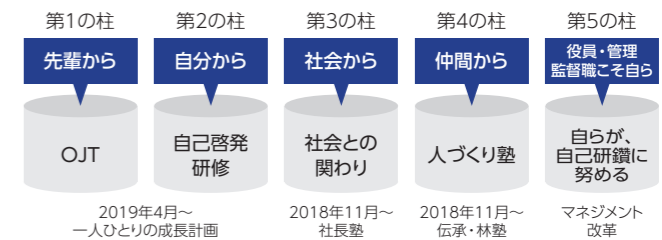


4 人づくり革命

「ヒト」が当行の一番の財産であり、人の成長が地域の成長、銀行の成長に繋がる」という観点から人財育成に取り組んでいます。人づくり革命として「5つの柱」を掲げ、「地域の発展に貢献することを働きがいとし、「誠実」に「情熱」を持って「行動」できる人財、お客さまの多様化するニーズに対応できる人財」を本気で育成しています。

企業理念の実現に向けて能動的に行動する人財を増やすことを目的に、職員一人ひとりが人間力向上に取り組む組織づくりの一つとして「人づくり塾(伝承・林塾)」活動を展開しています。中堅・若手行員が主体的に、業務終了後に月1回ほど地区別に集まり、様々なテーマで話し合っています。自ら考え行動する風土の醸成に繋がっています。

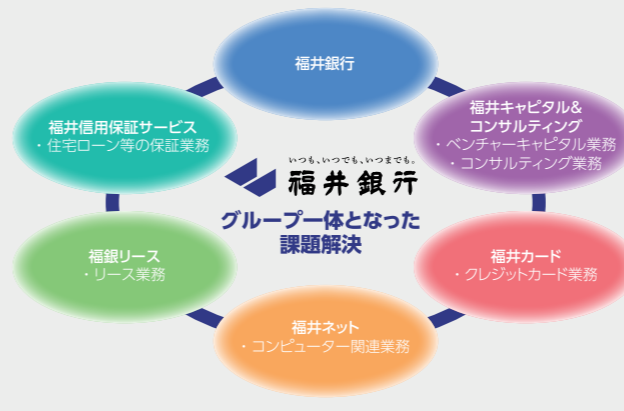
5つの柱



TOPICS

■ 連結子会社の完全子会社化

連結子会社5社の資本構成を見直し、当行の持分比率を引き上げ完全子会社化しました。これにより、お客さまの課題解決に向け、グループ一体となった金融サービスのご提供がよりスピーディーに行えるようになりました。



■ 小松支店のBANK IN BANK

Fプロジェクト(地域経済の発展に向けた包括提携)に基づき、福邦銀行小松支店を当行小松支店内に移転しました。1支店内に2行が同居する共同店舗は全国で初めてとなります。それぞれの店舗網・店舗機能を相互に活用し、効果的な店舗運用を実現していくことで創出される経営資源を、お客さまサービスの質の向上と提供機会の拡充に繋げてまいります。



地域とともに、 お客さまとともに、 時代の変化に 合わせて成長する

取締役 兼 代表執行役頭取
林 正博



Q 2020年3月期の振り返りを お願いします。

2020年3月期の業績は、上半期は雇用環境や個人所得の改善もあり緩やかな拡大基調で推移したものの、下半期は消費税率の引上げや新型コロナウイルス感染症の影響により拡大ペースは鈍化し、予防的な引き当てを実施したため減収減益となりました。進行中の中期経営計画『「企業理念」の実現に向けて(第1章)』のもと、お客さまとの接点を増やし、悩みや課題にしっかりと寄り添い、経営改善や事業拡大のお手伝いを行ってきた成果として、金融緩和で利ざやが縮小する厳しい環境でも、事業性理解の徹底により中小企業向け貸出残高は着実に伸び、個人向け取引も順調に増加しました。その結果、本

業利益を表すコア業務純益は10年ぶりに増加に転じ、資金利益の増加や手数料収入等の収益増加により業務粗利益が反転したことは評価しています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症は福井県内にも大きな影響を及ぼしており、県内経済の急激な減速に伴う企業活動および個人消費活動への影響は注視する必要があると考えています。

Q 中期経営計画『「企業理念」の実現に向けて(第1章)』のスタートから2年 が経ちましたが総括をお願いします。

中期経営計画では、福井県内の人口減少と急激な少子高齢化の進展が想定されるなか、福井がこれからも持続

中期経営計画『「企業理念」の実現に向けて(第1章)』(2018年4月～2021年3月) 計数目標と実績

| | 2018年3月期 実績 | 本中期経営計画期間 | |
|------------|-------------|-------------|-------------|
| | | 2020年3月期 実績 | 2021年3月期 目標 |
| 事業性融資先数 | 9,848先 | 10,530先 | 10,500先 |
| 中小企業向け貸出残高 | 4,758億円 | 5,176億円 | 5,300億円 |
| 預り資産保有先数* | 33,965先 | 36,802先 | 40,000先 |
| 消費者ローン先数 | 66,037先 | 65,502先 | 70,000先 |

* 投信、公共債、仕組債、外貨預金

的に発展するため、地域の「働く場所」「働く人」をふやすことを最重要課題としており、その実現に向け「お客さまをふやす・働く場所、働く人をふやす」「コンサルティング機能の強化」「選択と集中」「人づくり革命」の4つのテーマを掲げています。「人づくり革命」で職員の能力を高め、「選択と集中」で行内の人員の再配置を行ってお客さまと接する営業部門の人員を増強し、「コンサルティング機能の強化」で質の高い課題解決策を実践する。このサイクルをまわすことで、地元企業の業績改善を通じて地域経済の活性化と雇用の創出を図り、結果として当行の「お客さまをふやす」のが中期経営計画の目的であり、地域金融機関である当行の存在意義でもあります。中期経営計画の4つのテーマのうち、最も力を入れたのが「人づくり革命」です。お客さまに真にご満足いただける質の高いサービスを提供し続けていくためには、優秀な職員の存在が欠かせません。戦略に応じた人財育成プランの運用や、同僚・先輩・経営陣などとの対話に加え、地域のために汗を流しておられる経営者との対話を通じて銀行員の視点では得られない気づきを一人ひとりの成長に繋げ、地域の発展に貢献することを働きがいとす

る職員を増やす取組みを行っています。加えて、管理職・支店長クラスの育成にも注力し、行内の各部署で自ら考え、行動できる自律した組織づくりと、そこで働く職員の働きがいと働きやすさの向上を図ってきました。こうした取組みの成果もあり、本年2月以降は新型コロナウイルス感染拡大に伴う対応が求められる難しい環境のなか、地域に対して必要なことは何かを考え、組織全体が一体となって動くことができていると感じています。

Q これまでの新型コロナウイルス感染症への対応と、中期経営計画の最終年度に取り組むべき課題を教えてください。

福井県では、新型コロナウイルスの影響で2月ごろから飲食業や宿泊業の業績が悪化し、その後、製造業も含めて影響が広がっています。福井県には堅実な企業が多いですが、資金繰りに窮する企業が増えてくることが予測できたため、感染拡大の初期段階からお取引先を全て訪問して状況把握を行い、緊急的に事業継続上の資金が必要なお取引先に対し、支店長の権限で融資を行ってきました。当行では、従来は本部で行っていた融資の決裁権限を2019年より大幅に営業店に委譲しましたが、この仕組みを通じて支店長が融資の可否を判断する訓練を積んできたことが今回の環境下で大きな成果として表れ、現場が混乱することなくスピーディーに多くのお取引先の資金繰り支援を行うことができています。新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかでもお客さまが事業を継続できるよう、当行としても平常時より積極的にリスクを負って融資を行っていくことも必要であり、より深いお客さまの事業性理解が重要になります。一方で、中期経営計画の最終年度である2021年3月期は、当行の真価やこれまでやってきたことの成果が問われる一年になるでしょう。お取引先の立場から考えると、融資は返済義務があるため、単純に融資を積み上げればよいというわけではありません。本質的に必要なものを見直して不稼働資産の売却や徹底した経営合理化によるキャッシュフローの改善に加え、新型コロナウイルス

企業理念

地域産業の育成・発展と地域に暮らす
人々の豊かな生活の実現

中期経営計画

『「企業理念」の実現に向けて(第1章)』

(2018年4月～2021年3月)

地域とともに、お客さまとともに、
時代の変化に合わせて成長していく期間

2つのコンセプト

- ・より早く、より深く、より広く
- ・変わる、変わる、変えられる

4つのテーマ

- ・お客さまをふやす・働く場所、働く人をふやす
- ・コンサルティング機能の強化
- ・選択と集中
- ・人づくり革命

頭取インタビュー

収束後の社会構造の変化を見据え、新たな経営形態の模索やビジネスモデル転換のコンサルティングなども行っていく必要があります。この環境下でお取引先への支援をしっかりと行うことができれば、地域経済の減速を最小限に抑えることができ、また当行の職員の自信にもつながります。そのため、気を引き締めて新型コロナウイルス感染拡大の状況とお客さまの状況を注視し、お取引先支援を強化していきたいと考えています。

Q 2019年から職員の人事評価から預り資産獲得などの数値目標を外されましたが、その後の進捗はいかがですか。

これは単年で成果ができるものではなく、しっかりと腰を落ち着けて取り組むべき課題です。人事評価から数値目標を外したのは、目先の数字ばかりを追ってしまうと、地域の発展とお客さまの豊かな生活の実現に向けて貢献するという本来の目的を見失ってしまうことを恐れたことが最大の要因です。中長期の視点でお客さまの資産を守り育てる提案を行うべきであり、現在、そのような提案ができる体制にシフトしている過渡期にあります。その中において数値目標は弊害になります。数値目標があると、お客さまが買ってくれそうな商品を提案し

てしまいますが、それが本当に投資すべき商品とは限りません。中長期の視点で着実にお客さまの資産の増加に貢献できる資産運用の提案ができるよう、引き続き体制の整備を図っていきます。

Q 福邦銀行との包括提携の狙いと今後の取組みについて教えてください。

当行と福邦銀行はともに福井県を主たる営業基盤とし、地域の活性化を使命・役割とする金融機関です。中部縦貫自動車道の全線開通や北陸新幹線の敦賀延伸など、交通インフラ整備による追い風を最大限に享受し、地域経済の発展とお客さまサービスの一層の向上を実現するためには、同じ志を持つ両行の連携・協働を強化した方が良いとの結論に達しました。2019年9月の検討開始以来、両行役員直轄の専門部署を中心に「サービス向上」「地域経済活性化」「組織・業務改革」「ふくい未来創造」の4つのテーマごとに積極的な意見交換と連携・協働に向けた検討を継続的に行っています。

こうした両行協働による取組みを「Fプロジェクト」と銘打ち、お取引先へのセミナーの共催、有料職業紹介事業への参入、福邦銀行小松支店の当行小松支店内への移転、当行が運営する電子マネーカード「JURACA」の共同募集などを行っています。店舗の共同化・集約は提

携の柱の一つで、今後両行の約20店舗を集約する方針です。また、次代を担う人財の育成は両行共通の重要なテーマであるため、研修や「人づくり塾」の共同開催による職員の相互の成長、人材交流による一体感の醸成に努めていきます。こうした取組みを通じて、今後5年間でお客さま価値向上による業務粗利益増強7億円、投資抑制や店舗・ATM・事務共通化などによるコスト削減効果33億円、合計40億円(両行合算)のシナジー効果を見込んでいます。

資本提携に関しては、業務提携の効果をより高めていく観点から、両行のグループ化を視野に入れた最適なあり方を引き続き協議してまいります。

Q Fプロジェクトの施策の1つである「有料職業紹介事業」許可申請の狙いを教えてください。

福井県は繊維、眼鏡などオンリーワンの技術・製品を持つ製造業が多い一方で人口減少が続いているため、有効求人倍率は全国平均を大幅に上回る水準で推移しており、人材不足が企業成長・事業承継を阻害する大きな課題となっているのが現状です。そのため、「経営幹部」「専門技術人材」など、地元企業のニーズに適切な人材を紹介することで経営課題の解決、ひいては地域経済の活性化にもつながると考えています。また、地元企業からニーズの高い業務を有償で行うことにより、当行の収益拡大にもつながるWin-Winの関係が構築できます。2020年3月に福邦銀行とともに、内閣府が実施する地方創生支援事業の間接補助事業者に共同採択されたことを機として、本格的に企業の人材不足解消に向けたコンサルティング業務によるお取引先支援を強化していきます。

Q SDGsへの取組みを教えてください。

国連の提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」の考え方を経営戦略の軸に組み込み、銀行業を通して持続可

能な社会の実現に繋げていくため、2018年12月に「福井銀行グループSDGs宣言」を制定しました。「企業理念」や「中期経営計画」と特に親和性の高い「働きがいも経済成長も」「産業と技術革新の基盤をつくろう」「住み続けられるまちづくりを」「平和と公正をすべての人に」の4つの目標を重点推進項目として様々な取組みを行っています。

その一環として「ふくぎんSDGs私募債」の発行を2019年10月から開始しました。SDGs私募債は、発行企業さまとともに地域社会の課題解決に貢献することを目的としており、発行企業さまから受け取る手数料の一部で当行が物品を購入し、SDGsの取組みが行われている団体等に寄贈を行うものです。趣旨に賛同して下さるお取引先が多く、募集開始から6か月(2020年3月末)での実績は発行企業13件、発行金額860百万円となりました。

Q 最後に地域に果たす役割と将来像を教えてください。

先を見通すことが困難な状況のなか、地域の持続的な成長に向けて銀行が地域に果たすべき役割は、より大きなものになっています。まずは、地元企業が事業を継続できるよう、手厚く支援を行っていくことで、中期経営計画で定めた計数目標の達成にもつながると考えています。一方で、アフターコロナを見据えたお取引先の支援が何より重要だと考えています。北陸新幹線の敦賀延伸を3年後に控え、100年に一度の一大イベントの効果を最大限に発揮させるためには、観光業などの地元産業の支援とともに、新型コロナウイルス収束後の社会構造の変化にお取引先が対応するための支援が欠かせません。先が不透明な状況だからこそ、経営陣のみならず職員全員がそれぞれの立場で地域の持続的な成長に必要なことは何かを自律的に考えて行動していくことが求められます。引き続き県や市町などの自治体や商工経済団体などと連携して雇用の創出に取り組み、福井県の持続的な発展に貢献してまいります。





福井銀行 取締役 兼
代表執行役頭取
林 正博

福井新聞社 代表取締役社長
吉田 真士氏

「地域とお客さま」が第一。 時代を見据え持続的成長へ。

福井の地域経済を支え続け、福井銀行は昨年、創立120周年を迎えました。超低金利が長引く逆風を逆手にとるように、創立時の企業理念に立ち返って、意識と行動改革を推進。業務の幅を広げながら、県内各地のまちづくりなどにも積極的に関わって、その存在感を高めています。

企業理念に立ち返り 行内の改革を推進。

吉田 近年、いろいろと新しい取り組みをされている印象ですが、昨年4月に人事評価から営業ノルマを廃止すると発表された時は驚きました。

林 全国的に金融機関にとって厳しい環境が続きますが、だからこそ目先の数字にとらわれすぎはいけません。福井銀行の企業理念は「地域産業の育成・発展と地域に暮らす

人々の豊かな生活の実現」なのですが、今こそ理念に立ち返り、お客さまの声をしっかりと聞いて、中長期的な視野で考え、行動することが望まれます。福井銀行の存在は福井県があってこそ。福井を元気にしていくのは、私たちの使命です。例えば、地元企業が活性化すれば雇用が広がり、働く人が増えれば私たちのお客さまも増え、結果的に私たちの活躍の場も広がるはず。大切なのは、そういった時に役に立てる銀行、選ばれたい銀行であることです。そのため

に職員一人ひとりのスキルや人間力を高めていくことが重要です。

吉田 一般的に銀行や銀行員には堅いイメージがありますが、より柔軟に、献身的に動くことを求めているわけですね。

林 受け身ではなく、常に考え、率先して行動することが理想です。主に若手職員向けに一昨年11月、「人づくり塾」という勉強会をスタートし、仕事のスキルだけでなく人間力を向上させ、自立的に行動をしようという話をしています。一方で支店

長クラスには部下の意見をくみ上げるマネジメントの指導を続けています。銀行には堅いイメージがあるかもしれませんが、かなり意見を言い合える自由な雰囲気になったと感じています。

吉田 昨年の夏にオフィスカジュアルを始められたことから、確かに自由さがにじみ出ていますね。

林 現場から出た提案です。働きやすさを優先して行内の一部をOKにしました。今後も積極的に職員たちの意見を採用していきたいと思っています。

コンサルティング、 人そのものを強みに。

吉田 変えるべきものは変える、というスタンスですね。業務の面ではいかがですか。

林 預金残高や中小企業向けの貸出残高、預り資産保有先数といった数字は増えていますが、それだけでは成長できない環境です。まず取り

組むべきは、コンサルティング機能の強化。お客さまの話をしっかりと聞き、今本当に必要なものを整理して、的確な課題解決の方法を提案していきます。資産運用や経営改善、事業承継、M&Aなどご相談は多岐にわたるので、職員のスキルアップを進めると同時に、一昨年の春にはコンサルティング業務を専門とする組織も設けました。

吉田 個人の人生や企業の将来を左右するという点で、お客さまとの踏み込んだ関係づくりが大切ですね。

林 だからこそ職員は知識の幅を広げ、人間性を磨くことが重要なのです。銀行は商品を販売したとしても、それは終わりではなく始まり。お客さまのお付き合いは一生続くので、「その時良ければいい」という考えでは通用しません。

吉田 じっくりお客さまと向き合うためには、マンパワーが必要です。

林 そのためには営業人員を増やすことが不可欠です。店舗の統廃合も含めて業務を見直しながら、体

制をより充実させていきます。AIの導入なども、結果的にはお客さまとの時間づくりにつながると考えています。

新本店、西口再開発。 福井のまちと共に。

吉田 昨年オープンした永平寺の宿坊をはじめ福井駅の西口再開発など、まちづくりにも積極的に関わっていますね。今年12月にオープン予定の新しい本店も、まちの雰囲気ガラッと変えてくれそうです。

林 新本店は福井の伝統産業の織維をイメージしたデザインで、内装には越前和紙やスギ材など県の特産品を使います。県外からのお客さまには福井の産業を知ってもらえる場に、県内のお客さまにとってはいつでも気軽に立ち寄れる交流スペースになればと考えています。西口再開発は福井を元気にするまたとないチャンスです。4名の職員を派遣していますが、今後も地域の持続的発展につながる協力は惜しみません。

吉田 地元への貢献ということであれば、一緒に電子マネーカード「JURACA」にも取り組んでいただいています。利用額の一部が福井県に寄付されるシステムなので、より多くの県民に知ってもらい、使ってもらいたいですね。

林 そのほか福井新聞社と一緒に取り組んでいる「考福塾」や「ミラカナ。」も順調です。福邦銀行との連携など、これからもいろいろなところと協力して強みを活かしながら、業績の拡大、そして福井の発展を目指していきます。



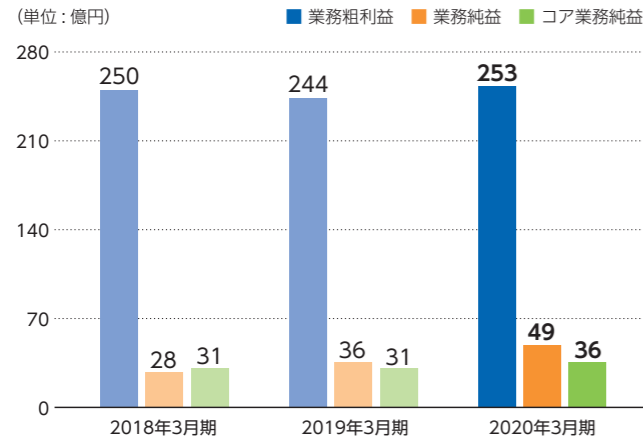
2019年12月1日の福井新聞朝刊に掲載されました「ふくい未来戦略」をもとに、一部、最新の情報にして掲載しています。

財務ハイライト

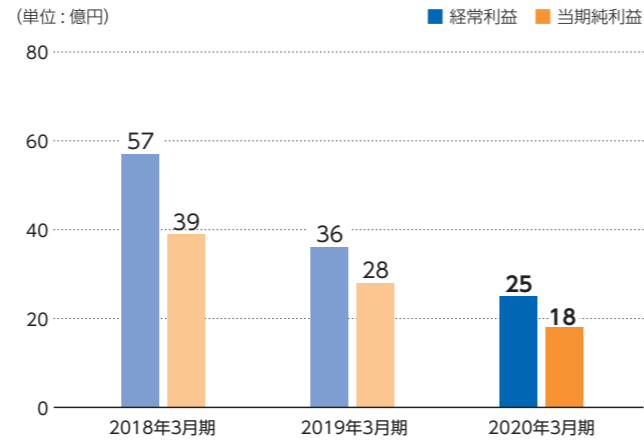
2020年3月期の決算についてお知らせします。

■ 主要損益の状況

業務粗利益・業務純益・コア業務純益〈単体〉

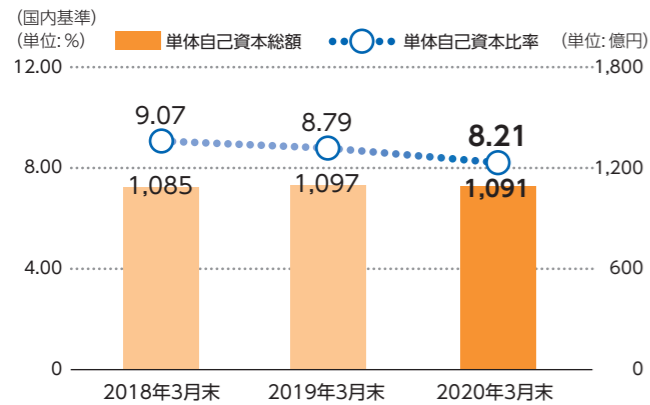


経常利益・当期純利益〈単体〉



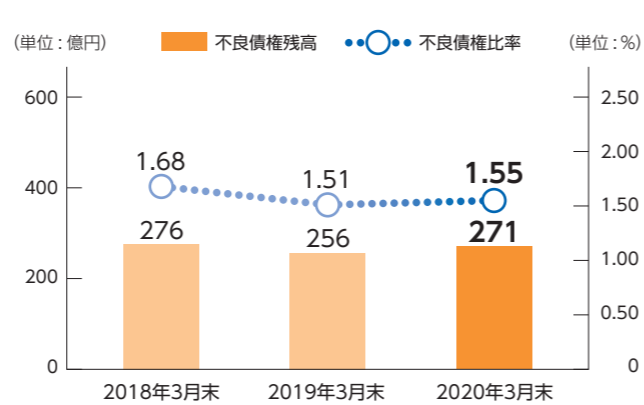
業務粗利益は、貸出金利息の減少を上回る有価証券利息配当金の増加による資金利益の増加に加え、役員取引等利益や債券関係損益も増加したことから、前期比増益となりました。業務純益及びコア業務純益は、業務粗利益の増加を要因として、前期比増益となりました。経常利益及び当期純利益は、与信関係費用の増加により、前期比減益となりました。

■ 自己資本比率〈単体〉



2020年3月末の単体自己資本比率は貸出金や有価証券の増加を主因としたリスクアセットの増加により8.21%と前期末比低下しておりますが、健全性を十分に確保しています。

■ 不良債権



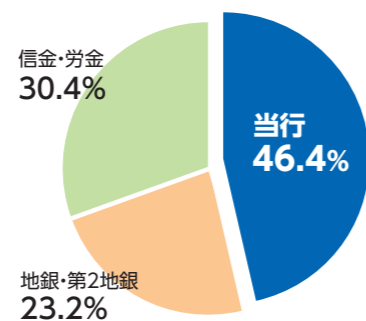
2020年3月末の不良債権残高は、前年度末比15億円増加して271億円となりました。また、不良債権比率は前年度末比0.04ポイント上昇して1.55%となりました。引き続き、お取引先の経営改善のお手伝いや不良債権処理を進めてまいります。

■ 預金・貸出金シェア

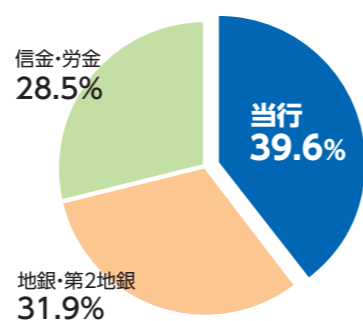
(2020年3月末現在)

お客さまからの高い信頼に支えられて、福井県内において、福井銀行は、預金・貸出金ともにトップシェアを保っております。引き続き、地域のみなさまから信頼される銀行を目指してまいります。

福井県内の預金シェア

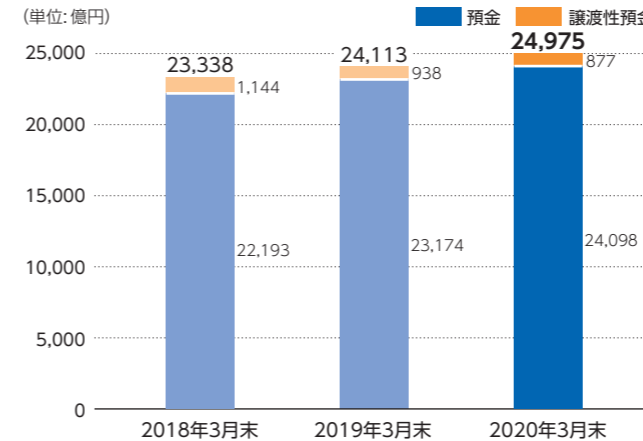


福井県内の貸出金シェア



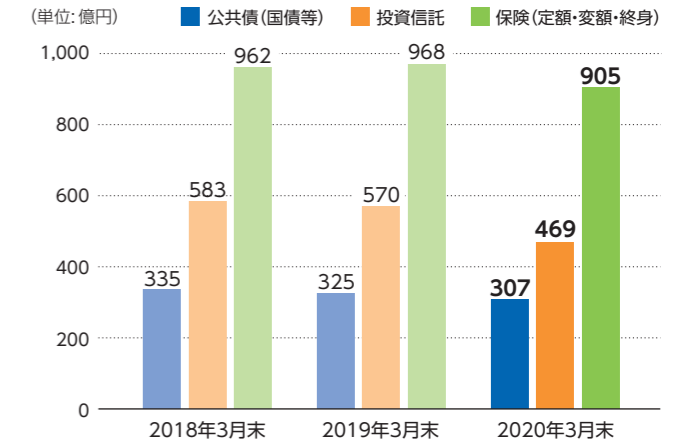
■ 預金等残高・預り資産残高

預金等



譲渡性預金を含む預金等は、法人・個人・金融が増加したことから、全体で期中862億円増加し期末残高は2兆4,975億円となりました。

預り資産

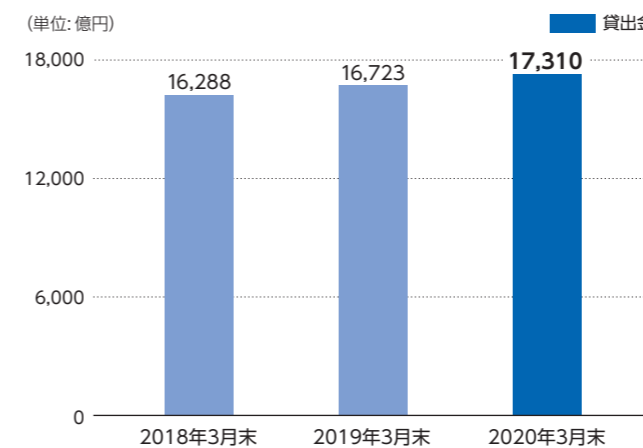


公共債(国債等)は、期中18億円減少し期末残高は307億円となりました。投資信託は期中101億円減少し期末残高は469億円となりました。保険(定額・変額・終身)は、期中63億円減少し期末残高は905億円となりました。

公共債(国債等): 額面ベース 投資信託: 純資産残高ベース(口数×基準価額+1万口)
保険(定額・変額・終身): 払込保険料の合計額

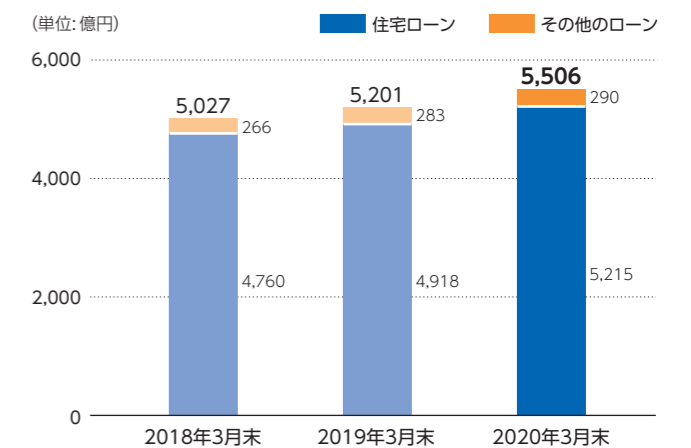
■ 貸出金残高・消費者ローン残高

貸出金



貸出金は、消費者ローンを含む中小企業等向け貸出が増加したことから、期中587億円増加し期末残高は1兆7,310億円となりました。

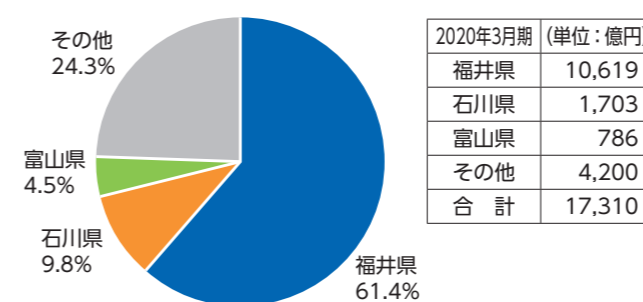
消費者ローン



消費者ローンは、期中305億円増加して期末残高は5,506億円となりました。うち住宅ローンは、期中297億円増加して期末残高は5,215億円となりました。

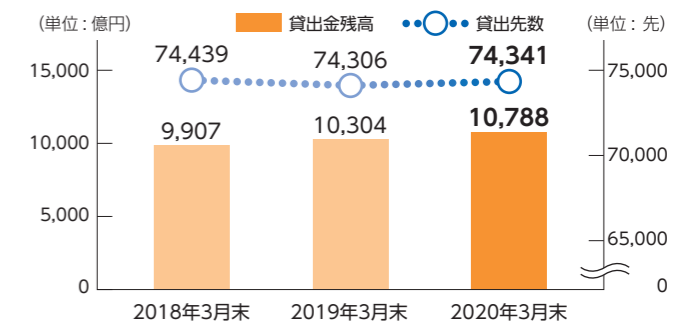
■ 貸出金の地域別内訳・中小企業等向け貸出金

貸出金残高の地域別内訳



北陸3県内での貸出金は1兆3,108億円(うち福井県内10,619億円)であり、貸出金全体の75.7%(うち福井県内61.4%)となっております。

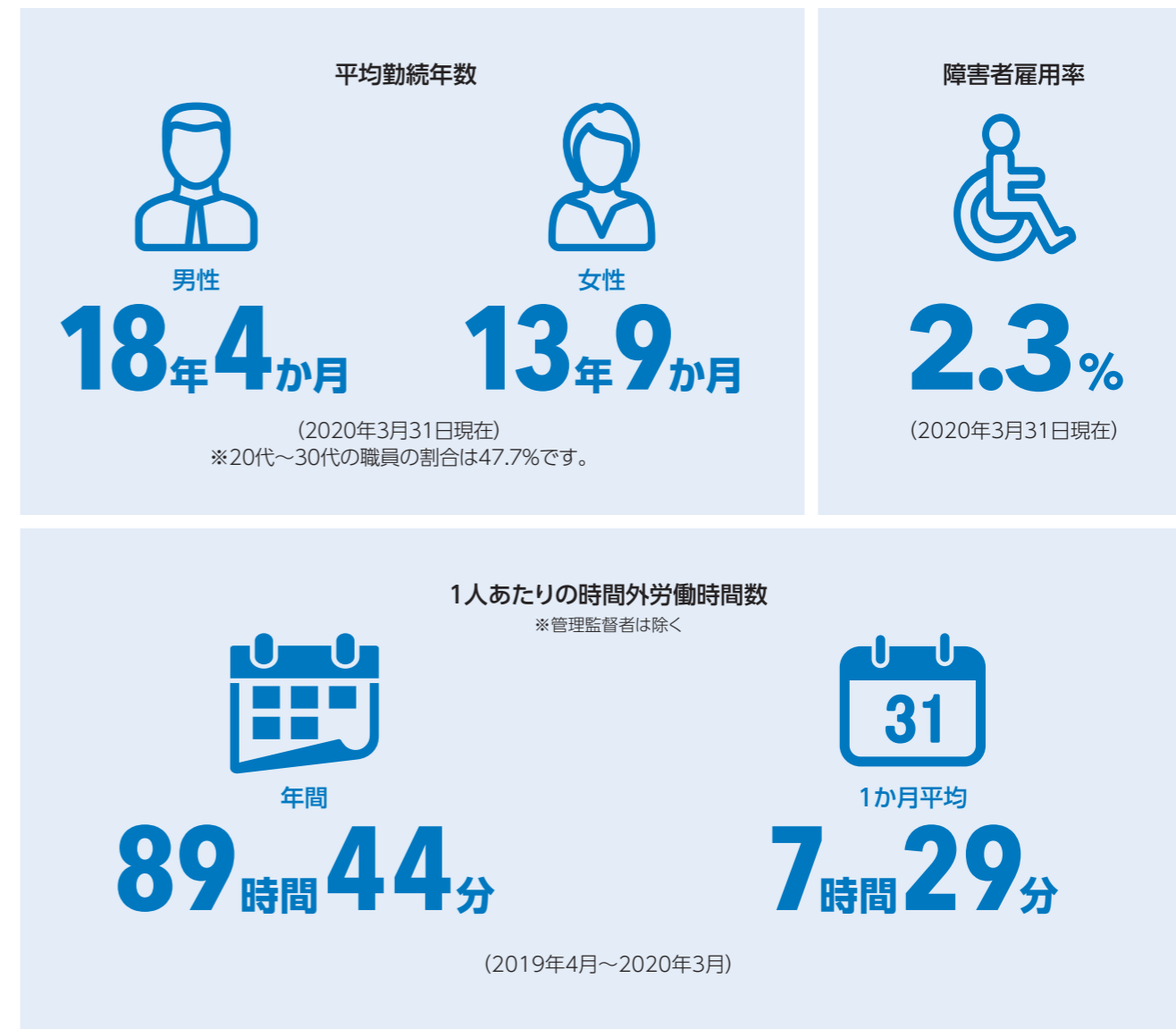
中小企業等向け貸出金



中小企業等向け貸出金残高は期中484億円増加し1兆788億円となり、総貸出金残高の62.3%となりました。また、貸出先は、期中35先増加し74,341先となりました。

非財務ハイライト

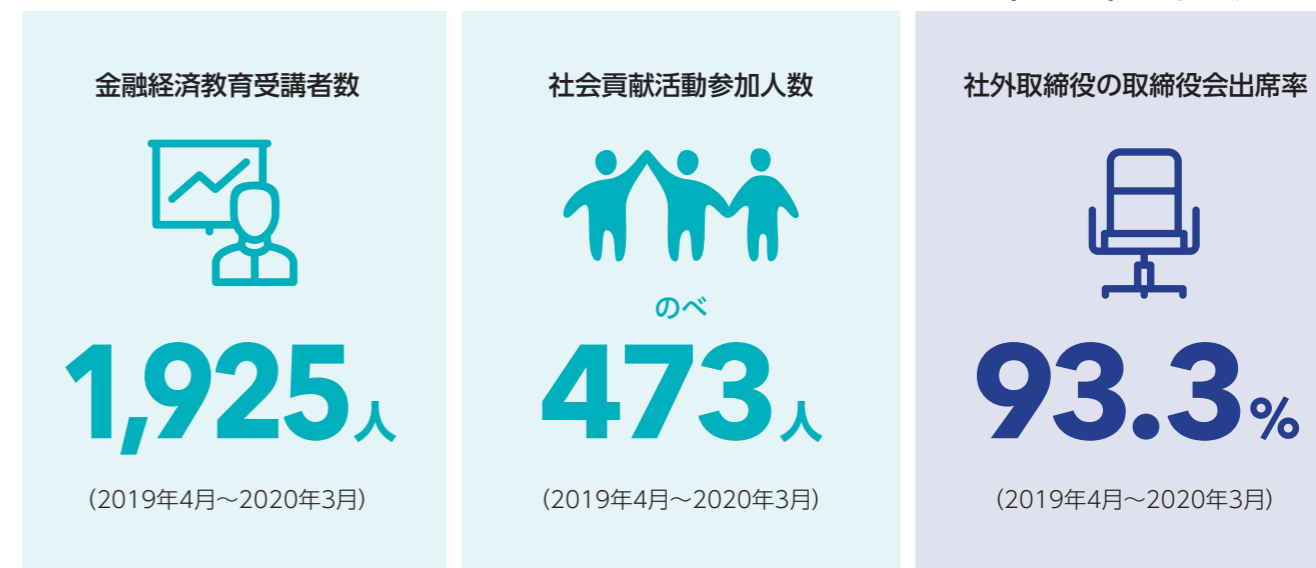
人財



社会貢献活動



コーポレート・ガバナンス

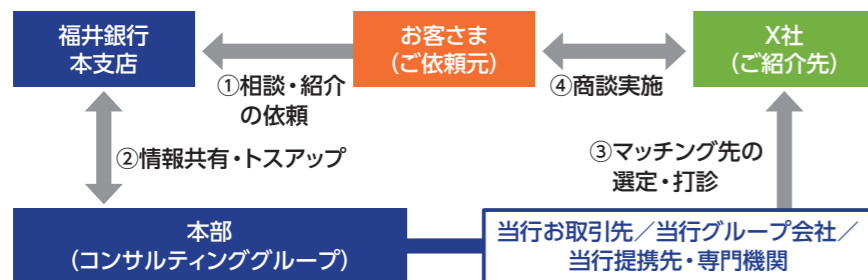


▶ 販路開拓・事業拡大に向けた取組み

国内外の商談会やセミナーの開催を通じたビジネスマッチングの機会や情報の提供、グループ会社や外部機関とのネットワークを活用したビジネスソリューションの提供、専任部署の帯同訪問や情報提供による海外ビジネスサポートなどにより、お客さまの販路開拓や事業拡大支援に取り組んでおります。

ビジネスマッチング

本部コンサルティンググループの専門担当がお客さまのニーズに対し、最適なマッチング先を選定し、ご紹介から商談成立までを営業店と一体となってサポートしております。



● 主なマッチング例

| | |
|-----------------|---|
| 販売・仕入 | 新たな販売/仕入チャネルのご紹介など |
| コスト削減・合理化 | 社内システムの効率化・諸経費削減ニーズに対し、ソリューションパートナーのご紹介など |
| 生産・技術・販売などの業務提携 | 新製品・新技術開発パートナーのご紹介など |
| 事業多角化 | 新規事業進出ニーズに対し、FC展開・代理店などパートナー企業のご紹介など |
| 物流効率化 | 物流アウトソーシング、特徴ある物流業者のご紹介など |

株式会社ZUUと業務提携

2019年11月、お客さまの「生産性向上」や「業務効率化」に関する課題解決を支援するため、北陸の金融機関では初めて株式会社ZUUと業務提携しました。2019年12月には、「ふくぎんビジネスセミナー〜経営のヒント〜組織の成長を10倍速に! 行動を100%結果に変える『鬼速PDCA』」を開催し、同社の代表取締役役員田和成氏が登壇され、46名のお客さまが参加されました。



商談会開催による販路開拓

「百貨店」や「高速道路サービスエリア」「福井の食」など、様々なテーマ・目的での商談会を開催し、お客さまの商品のPRや大手企業・多数の業者との商談の場の創出に取り組んでおります。

地方銀行フードセレクション2019を開催

2019年9月「地方銀行フードセレクション2019」を開催し、10先のお客さまが参加されました。本商談会は主催する全国の地方銀行が取引先の販路拡大に向けた支援や食関連産業の育成支援を行う、国内最大級の商談会です。

今後も、様々な商談会を通じて、福井県の素晴らしい地域食材を全国の食品バイヤーへPRする機会を提供してまいります。



クラウドファンディング「ミラカナ。」

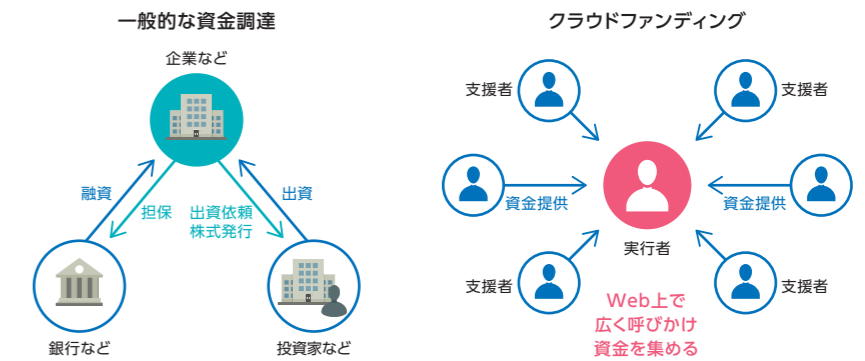
2018年4月に、株式会社福井新聞社およびREADYFOR株式会社と連携し、福井県に特化したクラウドファンディングサービス「福井の未来をかなえるクラウドファンディング『ミラカナ。』」を開始しました。『ミラカナ。』は、「全国の“やさしいお金”を福井へ」をテーマに、福井県内におけるクラウドファンディング利用の活性化を図るプラットフォームです。お客さまの事業資金の調達にクラウドファンディングという新たな手段を加え、お客さまの成長機会の創出に寄与してまいります。

● 「ミラカナ。」のメリット

1. 自身のやりたいことや目標を、世間に広く知らせることができる
2. 全国から「ファン」「支援者」を獲得できる
3. アイデアが世の中に受け入れられるかマーケティングができる

クラウドファンディングとは?

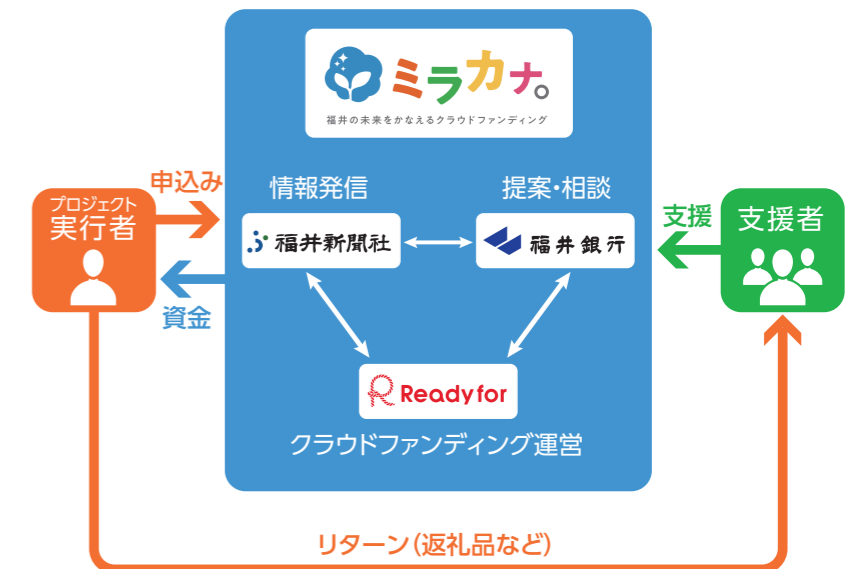
クラウドファンディングとは、「こんなモノやサービスを作りたい」「世の中の問題を、こんなふうに解決したい」といったアイデアやプロジェクトを持つ実行者が、専用のインターネットサイトを通じて世の中に広く呼びかけ、共感した人から資金を集める方法です。



「ミラカナ。」のスキーム

「ミラカナ。」は、Readyforのクラウドファンディング事業に関するコンサルティングサービスに、福井銀行の顧客サポート、福井新聞社のWeb、紙面を通じた情報発信を加えることで、お客さまのクラウドファンディングプロジェクトの達成を力強く支援します。

- 1 プロジェクト実行者の募集
福井銀行、福井新聞社がReadyforに対し、クラウドファンディング利用を希望するお客さまを紹介します。
- 2 支援者の募集
「ミラカナ。」、Readyforの特設ホームページにおいてプロジェクトの概要と目標額を掲載し、全国から広く支援を募ります。
- 3 プロジェクト支援への御礼
目標額を得てプロジェクトを達成した実行者は、最後に支援者に対してモノやサービスなどの「返礼品」を送り、感謝の気持ちを伝えていただきます。



創業300年の酒造会社における新商品製造・販売を支援 ~丹生酒造株式会社様~

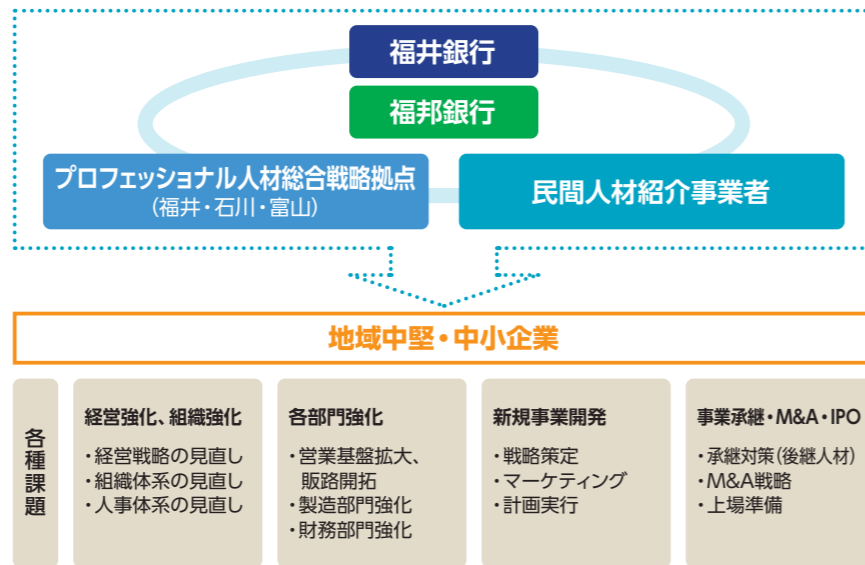
蔵元杜氏だったご主人を突然亡くされた奥さまと、奥さまの妹さまによる新商品開発・販売をご支援させていただきました。当時、酒蔵を閉じるか継続するかを悩まれた末に、「300年支えていただいた地域への恩返しをしたい」と同時に「女性ならではの視点で新しい商品を開発したい」「これまで知らなかった多くの人と接点を得ながら開発資金を集めることができないか」という思いを一つに繋げるお手伝いをさせていただき、目標達成、新商品販売に至りました。



▶ 地域企業の人材不足に対する取組み

人材紹介業務を開始

近年、福井県を中心とする地域企業の人材不足が進行しており、また人材に関する経営課題も増加しています。当行は、2019年12月に、株式会社福邦銀行とともに「有料職業紹介事業」（以下、人材紹介業務）へ参入しました。人材紹介業務を通じて、お客さまの経営課題の解決、持続的成長を支援することで、地域経済の活性化に貢献してまいります。



先導的人材マッチング事業の採択

2020年3月、当行は株式会社福邦銀行とともに、内閣府が実施する地方創生支援事業（先導的人材マッチング事業*）の間接補助事業者として共同採択されました。両行は「ふくいプロフェッショナル人材総合戦略拠点」への人材派出を行い、地域における人材支援基盤の強化を図ります。本件は、2019年12月に有料職業紹介事業に参入した両行が、地域経済の発展に向けた包括提携（Fプロジェクト）の一環である

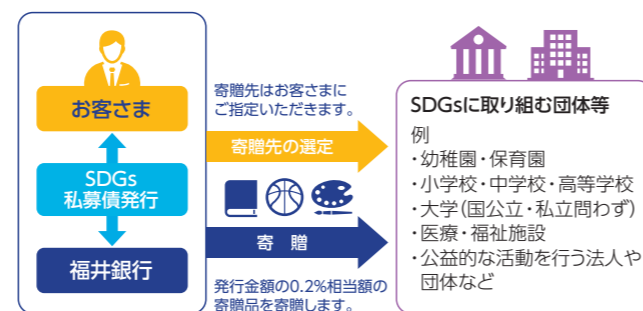
サービス向上プロジェクトのコンサルティング機能の強化として取り組むものです。両行は、人材支援の取組みを一層加速させ、お客さまのニーズに適切にお応えすることで、地域経済のさらなる活性化に貢献してまいります。

※「先導的人材マッチング事業」は、「第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」」（令和元年12月20日閣議決定）において盛り込まれた「地域人材支援戦略パッケージ」の一環として、日常的に地域企業と関わり、その経営課題を明らかにする主体である地域金融機関等が地域企業の人材ニーズを調査・分析し、職業紹介事業者等と連携するなどしてハイレベルな経営人材等のマッチングを行う取組みに対して支援を行うものです。

▶ ふくぎんSDGs私募債の取扱開始

2019年10月「ふくぎんSDGs私募債」の取扱いを開始しました。本商品は、SDGs私募債を発行する企業さまから受取手数料の一部（発行金額の0.2%相当額）を活用し、企業さまが希望されるSDGsの達成に重要な役割を担う組織や団体に対して書籍や物品等を寄贈するものであり、企業さまの資金調達とSDGsに対する活動を同時に支援する商品となっています。

**2019年度中のSDGs私募債
発行企業数13社・発行金額860百万円**



ふくぎんSDGs私募債発行企業さまのご紹介（寄贈の様子）



▶ 新型コロナウイルス感染症に対するお客さまへの支援

今般の新型コロナウイルス感染症の拡大により影響を受けられたお客さまに、心よりお見舞い申し上げます。当行では、本感染症により影響を受けられたお客さまへのご支援を、迅速かつきめ細やかに対応してまいります。

「新型コロナウイルス関連資金繰り相談窓口」の設置

2020年1月31日（金）より、「新型コロナウイルス関連資金繰り相談窓口」を設置し、法人のお客さまの資金繰りや事業継続、個人のお客さまの住宅ローンのお借入、ご返済見直しに関するご相談に迅速に対応しております。

営業店窓口

お近くの窓口はこちら
受付時間 平日9:00～15:00



フリーダイヤル窓口

● ふくぎんプラザ福井ローンプラザ
☎ 0120-291-808

● ふくぎんプラザ鯖江ローンプラザ
☎ 0120-291-005

平日 10:00～18:00
土日祝 10:00～17:00

※5月3日～5月5日、12月29日～1月3日を除く
※ふくぎんプラザ鯖江はアル・プラザ鯖江の休業日に準ずる



「新型コロナウイルス関連ゴールデンウィーク特別相談窓口」を開設
2020年5月、Fプロジェクトの取組みの一環として、「新型コロナウイルス関連ゴールデンウィーク特別相談窓口」を開設しました。当行では、本部フリーダイヤルを含む11か所の窓口を開設し、38件の相談を受け付けました。

感染症拡大に対する法人のお客さまへの支援

今般の新型コロナウイルス感染症拡大に伴う、国や各県の「緊急事態宣言」発令や営業自粛要請等により、お客さまの経営環境への影響が日々拡大しております。当行は、お客さまの事業継続における課題を的確に捉え、適切な解決策の提供に取り組んでおります。

| | | |
|--|---|--|
| 感染症拡大によるお客さまへの影響把握 ● 本感染症による影響や事業継続のための課題を把握 | 資金支援 ● 制度融資等を活用した緊急的な資金支援 ● 各省庁や自治体による助成金や給付金の活用支援 | 事業継続支援 ● 新たな販売先や仕入先の開拓・マッチング ● 海外への展開・事業継続支援 ● テレワーク導入等のIT支援 |
|--|---|--|

「新型コロナウイルス緊急対策資金」取扱開始

2020年4月、新型コロナウイルス感染症の影響により、売上高減少等の影響を受けている法人または個人事業主のお客さまの事業継続を支援するため、「新型コロナウイルス緊急対策資金」の取扱いを開始しました。
取扱期間：2020年4月24日（金）～2020年9月30日（水）

「雇用調整助成金」個別相談会を開催

2020年5月16日・17日、福井県社会保険労務士会との共催にて、「雇用調整助成金」個別相談会を開催しました。当日は32先のお客さまが参加され、雇用調整助成金の特例措置の概要や申請方法等について、社会保険労務士が相談員となり対応しました。



▶ 海外ビジネスサポート

県内企業のグローバル化が進むなか、経済成長を続ける中国・東南アジアを中心とする海外市場の取込みが重要な課題となっています。当行は、海外駐在経験の有する専門スタッフが海外拠点と連携し、海外での事業拡大に向けた幅広い支援に取り組んでおります。

販路拡大・調達先拡大

福井には、優れた製品や技術を持つ中小企業が数多く存在します。そうした企業の販路拡大や調達先の拡大に貢献するため、様々なサポートを行っております。



ものづくり商談会の開催

製造業企業等の材料や部品の現地調達や販路拡大のための「ものづくり商談会」を福井県との連名にて毎年継続して開催し、海外でのビジネスマッチングの場を提供しています。

COMMENT

当社は、産業機械、設備等をお客さまの工場へ搬入、据付をする重量物取扱い業務と、そのような機械、設備を「安全に確実に」お客さまへ届けるための梱包業務を中国で展開しております。
当社は長年中国で培った経験を基に、現地においても日本同等の作業品質をお客さまに提供できます。そのPRの場として、福井銀行様に紹介された「FBC上海ものづくり商談会」に2011年から継続的に参加しており、取引先開拓に大きく貢献しております。
これからも福井銀行様には、海外活動をする県内企業に対してあらゆるご支援を期待しています。チーム福井として福井県企業が一丸となり、中国でのビジネスの成功に寄与出来ますよう、弊社も精進してまいります。



株式会社ニホンパッケージ
巴開吉(蘇州)工業設備包装有限公司
董事 総経理
古木 昭仁 様

越境ECを活用した中国向け販路拡大支援

中国消費者向け越境ECプラットフォームを運営するインアゴーラ社と連携し、企業の中国市場への販路開拓を支援しています。また、2019年9月より当行グループ会社である福井キャピタル&コンサルティングが福井県事業「越境ECを活用した中国における福井県産品販路拡大事業」を受託する等、「オール福井」で中国消費者向けに県産品の魅力を伝えるプロモーション活動を展開しています。

COMMENT

当社は眼鏡フレームおよびサングラスの企画、デザイン、製造、販売を行っています。世界一の人口を有し、高い水準の経済成長を保つ中国のEC市場はとて魅力があります。現地を熟知した福井銀行の担当者様から、中国市場の動向や受けの良い商品、効果的なPR方法などの確かなアドバイスをいただき、越境ECにチャレンジしました。インアゴーラ社の支援もあり、色々な制約や商習慣、言語、通貨換算などの煩わしさは全く無く、とても順調です。データ分析などのフォローもしっかりしていただき、また、福井銀行様の支援ということで安心感があります。チャレンジして良かったですし、地元企業が挑戦するチャンスを作ってくれていることがありがたいです。



株式会社サンリーブ
ファッションアイテム部 部長
佐野 達也 様
ファッションアイテム部 営業課
富田 早苗 様

海外人材の採用・育成

海外での事業展開には、各国の事情に精通した優秀なスタッフの確保が欠かせません。
当行は、各団体や大学と連携し、外国人留学生の採用や育成に向けたサポートを行っております。

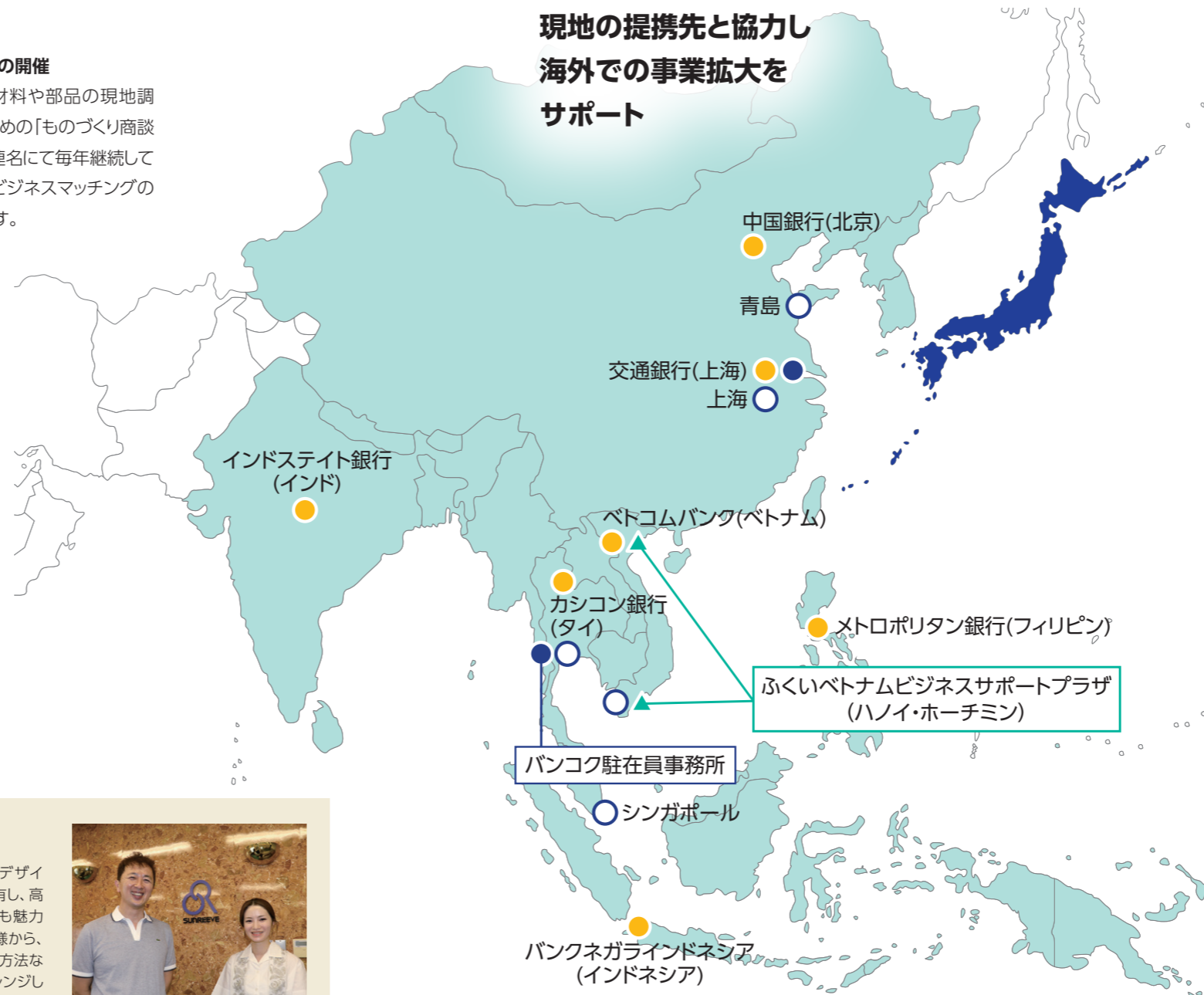


外国人留学生と県内企業の合同企業説明会
外国人高度人材の採用を希望する県内企業と福井県での就労を希望する外国人留学生の出会いの場を提供しました。



外国人人材定着支援セミナー
県内外国留学生の現状や、外国人人材の定着において課題となる異文化ギャップに焦点を当てたコミュニケーション方法について専門家をお招きし、ご説明しました。

当行の海外拠点や 現地の提携先と協力し 海外での事業拡大を サポート



- 海外拠点
- 海外提携銀行
- 行員派遣実績有り
- ▲ サポートサービス

COMMENT

入行後1年間の営業店勤務を経験した後、現在、海外支援チームに所属し、海外情報の発信や、先輩との帯同訪問、セミナーやイベントの運営など、日々多くのことを学んでいます。語学力を活かし決算書の和訳や、海外市場分析も行っています。これからは、もっと知識や経験を積み、グローバルな視点で多くのお客さまを海外へとつないでいけるよう努力していきたいです。



海外支援チーム
朱 曉霞

福井銀行の海外ネットワーク



バンコク駐在員事務所
日本からの派遣行員、現地スタッフが駐在し、お客さまのニーズに的確かつ迅速にお応えしてまいります。

経験豊富な人材
海外駐在経験のあるスタッフや現地事情をよく知る外国人スタッフが、全力でサポートいたします。
近年では、中国人スタッフを採用し、様々なお客さまのニーズにお応えするとともに、めまぐるしく変化する世界の状況に応じたビジネス戦略をサポートしてまいります。

行員派遣実績 4か国 24名

▶ お客さまのライフステージに応じた商品・サービスの提供

企業理念「地域に暮らす人々の豊かな生活」の実現に向け、当行は「お客さま本位の基本方針」を掲げ、お客さまのライフステージをふまえたニーズ・課題を理解し、最適な商品・サービスの提供に努めてまいります。



(「福井銀行の資産計画読本」より)

お客さまのライフステージに応じた課題・ニーズをトータルサポート

各営業店窓口では、お客さまのライフステージに応じた様々な課題に対し、最適な解決策をご提案しております。

お客さまのライフステージが大きく変化する住宅資金のご相談受付時には、住宅資金だけでなく火災保険やキャッシュレス、ほけんプラザと連携した保障の見直しなど、トータルでのサポートを行っております。



ふくぎんプラザ鯖江

セカンドライフ層へのサポート体制の充実

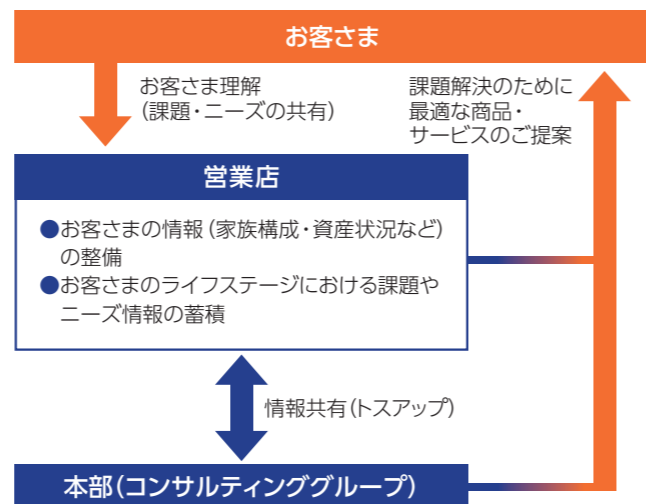
お客さまに豊かなセカンドライフを過ごしていただくために、営業店・本部(コンサルティングチーム)が一体となって、お客さまの様々な悩みやニーズに最適な解決策のご提案を行っております。

● 相続ニーズへの対応

高齢化社会が進行し、相続・贈与に関するニーズが高まっております。当行は相続・贈与における様々な悩みに寄り添いお応えするため、本部コンサルティンググループに専門担当者を配置し、お客さまに最適な相続関連サービスをご提供(お取次ぎ)いたします。

当行の相続関連サービス

- ・遺言信託
- ・遺産整理業務
- ・民事信託コンサルティング業務



▶ お客さまの利便性向上に向けた取組み

パソコンやスマートフォンを活用したサービスの拡充によるお客さまの利便性向上に取り組んでおります。

● 福井銀行アプリ

「いつでも」「どこでも」「簡単に」普通預金残高や入出金明細をご確認いただけます。また、現在行っているキャンペーンなどのオトクな情報を発信しております。



※普通預金のキャッシュカードをお持ちの方がご利用できます。



福井銀行アプリのダウンロードはこちら



● インターネットバンキング「ふくぎんネット」

口座の残高や入出金明細照会、振替・振込、投資信託や外貨預金のお取引など様々なサービスがインターネットでいつでもご利用いただけるサービスです。



- 利用できる主なサービス
- 振込
 - 振替
 - 定期預金
 - 積立定期
 - ローン
 - 資産運用



ふくぎんネットのお申込みはこちら



振込手数料が窓口よりオトク!

● 口座開設アプリ

スマートフォンで、インターネット支店(ジュラチック王国支店)の口座開設のお手続きが、ご来店不要で簡単にできます。

〈ジュラチック王国支店〉

2017年3月に開設した、当行のインターネット支店です。実際の店舗を持たず、「アプリ」「インターネットバンキング」「ATM(キャッシュカード)」でお取引いただけます。また、全国のセブン銀行ATMを手数料無料でご利用いただけます。



キャッシュレス社会への対応

当行は、福井県におけるキャッシュレス社会の構築に向け、様々な取組みを進めております。

JURACA

2種類の電子マネーと、福井ならではのサービスを提供する多機能型カードです。地元企業との連携を強化し、JURACA提示により、様々な割引や優待サービスを受けられるお店が拡大しております。

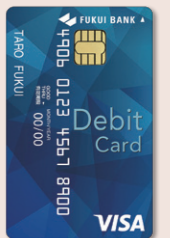
JURACA会員数 33,044人(2020年3月末)



ふくぎんVisaデビットカード

お買い物をしたらすぐに預金口座から引き落としされ、現金のようにご利用いただけるカードです。口座残高の範囲内でのご利用のため、使いすぎるのがなく、安心してご利用いただけます。

ふくぎんVisaデビットカード会員数 14,196人(2020年3月末)



「ふるさと県民カード」による地域活性化

JURACAは2016年10月に福井県の「ふるさと県民カード」第1号に認定されました。地元企業の販促支援と地域内消費の活性化を実現し、地域で最も愛され、支持される「県民カード」を目指しております。

BP Bank Pay

「Bank Pay(バンクペイ)」は銀行口座をお持ちの方が使える安心・安全なスマートフォン決済サービスです。専用アプリをダウンロードすることで契約加盟店でスマートフォンのみでカンタンにお支払いを済ませることができます。アプリのダウンロードからご利用まで、すべて無料でご利用いただけます。このサービスは全国の金融機関が参加を表明しており、順次拡大しております。

地域のみなさまへ～まちづくりへの参画～

▶ まち・ひと・しごと創生に向けた取組み

地方公共団体・地元支援機関・地元大学と密に情報交換を行うなど、産学官連携による地域資源の有効活用および地域経済の活性化に向けて積極的に取り組んでおります。

地方公共団体との協定締結

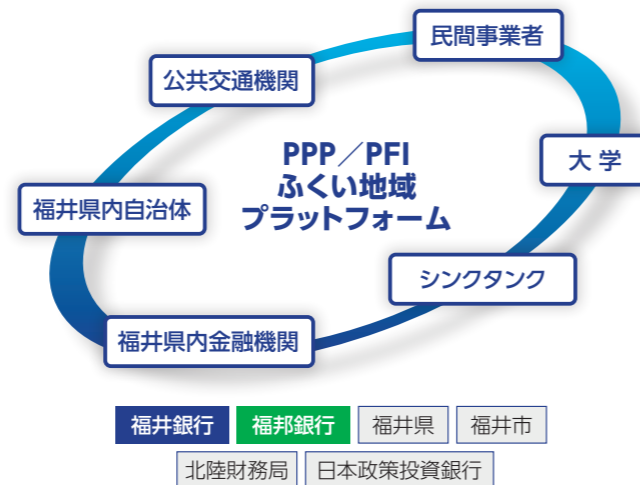
当行と各地方公共団体が相互に連携し、相互の人的・知的資源の活用を図り、協働による事業活動を展開することで、「まち・ひと・しごと」の創生と地域経済の持続的好循環の確立を目指すことを目的に、地方公共団体と連携協定を締結しています。今後も地方公共団体との連携を強化し、積極的な関与・協力を通じて地域経済の活性化に貢献してまいります。

協定締結先一覧

| 時期 | 地方公共団体 |
|--------|-----------------------------|
| 2015年度 | 越前市、福井市、勝山市、大野市、小浜市、敦賀市、美浜町 |
| 2016年度 | 永平寺町、坂井市、福井県、高浜町 |
| 2017年度 | 鯖江市、あわら市、越前町、南越前町 |

PPP/PFIふくい地域プラットフォーム

2016年12月、官民連携による地域活性化について考えるふくい地域プラットフォームを設立。2020年4月、Fプロジェクトの一環として事務局に福邦銀行を追加。財務省北陸財務局、日本政策投資銀行、福井県、福井市とともに開催しております。地域において「効率的かつ効果的な公的施設等の整備や、高速交通開通に伴う各事業のより円滑な実施などに向け戦略的にPPP/PFIの活用推進を通じた民間における新たな事業機会創出や民間投資喚起等による地域活性化実現」などを進める活動をしております。



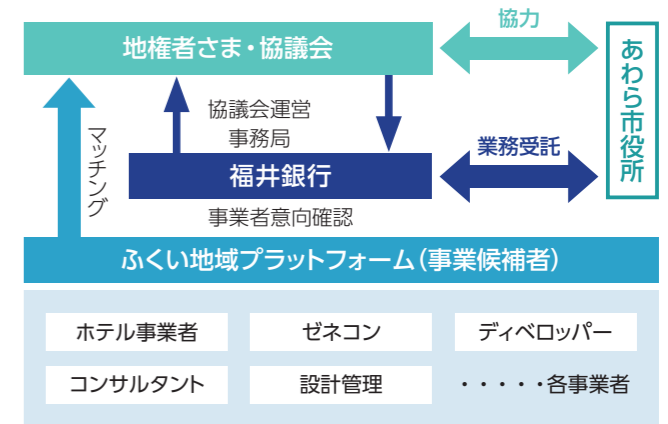
民間主導型小水力発電事業への関与(坂井市 橙ノ木谷川)

2020年2月、県内民間事業者による小水力発電施設において発電および売電を開始。当行は地域事業者との連携を図りながら、事業スキーム構築などのコンサルティング業務と融資で支援いたしました。再生可能エネルギー事業は地域資源を有効活用した地域活性化の手段として注目されております。当行は持続可能な社会の実現(SDGs)に向け、環境に配慮した取組みを支援してまいります。



あわら市との連携事業「駅西口エリア活用促進協議会」

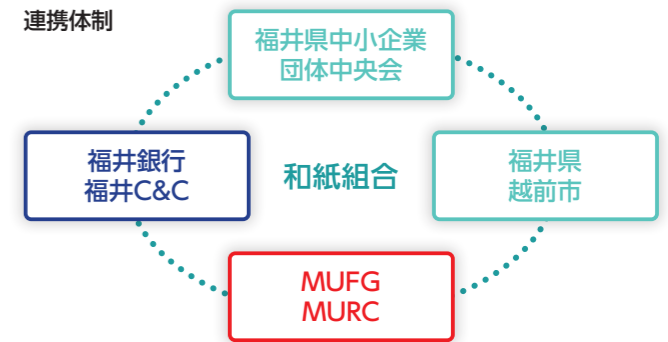
2018年9月、2023年の北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けた駅周辺整備事業で、当行があわら市より運営事務局を受託し、地権者の意向調査、地権者の合意形成、事業候補者の選定などにあたっております。福井県の「北の玄関口」にふさわしい交通結節点と魅力発信拠点として、駅利用者の利便性の向上を図るとともに、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして整備することで、駅周辺のさらなる賑わい創出を目指していくものです。



伝統産業の成長発展支援

和紙産地振興支援として2017年4月より福井県和紙工業協同組合との産地振興ミーティングを開催、大手コンサルタントの三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる公開セミナーの開催や組合員によるワークショップを実施しました。2018年度に入り、越前和紙のブランド力向上を目指し、福井県中小企業団体中央会との連携による中小企業活路開拓調査・実現化事業(中小企業組合等活路開拓事業)補助金申請を通じて、越前和紙産地振興プロジェクト構築事業委員会に参画し、2019年2月に5年間の越前和紙産地振興計画の策定に至っております。

連携体制



ふくい環境配慮型社会研究会の設立

2019年8月、公立大学法人福井県立大学地域連携本部、一般社団法人ふくいエネルギーマネジメント協会、福井県中小企業団体中央会とともに、福井ならではの地域特性を踏まえた環境配慮型社会の実現に向け、産学連携の研究会を立ち上げました(事務局は福井県立大学地域連携本部)。研究会では国連が目指している「持続可能な開発目標(SDGs)」への取組み、省エネや再生可能エネルギーの活用がどのような経済効果があるのかを中小企業の業態に合わせて分析、具体的活動に結び付きやすいように、実践方法や補助金支援策と結び付け企業に提案していきます。



福井駅西口再開発の事務局支援

2016年6月にユアーズホテルフクイ周辺の地権者を中心とした協議会が発足。以降、当行は事務局運営をサポートしてまいりました。再開発事業は準備組合を経て2020年1月に本組合が発立。また、ホテル運営者としてコートヤード・バイ・マリオットの進出が決定。今後も2023年の北陸新幹線福井延伸に向けたまちづくりを支援してまいります。

地域のみなさまへ ～地域への貢献活動～

創業以来、福井銀行がこれまで発展してきていくことができたのは、地域社会や地域のお客さまの長年にわたる多大なご支援のおかげであり、その感謝の精神は創立者精神である「四恩感謝」に集約されています。この「四恩感謝」の精神に則り、これまで当行を支えていただいた地域社会に深く感謝するとともに、地域社会の持続的な発展に向けて恩返しをさせていただくことが福井銀行の使命であると考えております。

▶ 地域やお客さまと一体となった人材育成

第7期「考福塾」の開催

福井県内の企業、団体に働く若者の中から、次世代のリーダーを育成することを目的とした「考福塾」の第7期研修を、2019年4月から2020年2月にかけて実施しました。福井の「今」と「未来」を考える人材育成の場として、福井新聞社さまと当行との共催で2013年からスタートし、本年度塾生45名を含め、これまで316名が受講しました。

福井にゆかりのある企業経営者や有識者の方々を講師にお招きし、塾生個人のスキルアップと塾生同士の人的ネットワークの形成につながるよう、質疑応答や意見交換に重点を置いたディスカッションやグループ討議を行っています。

福井で生まれ、福井に育てられた地域金融機関として、先人たちが築かれたこの福井を、これからも持続的に発展させていくことは当行に課せられた責務であり、「考福塾」を通して、次世代を担う多くの若者と一緒に、福井の未来を考え、語り合い、未来の福井と日本を担う人材の輩出に繋げてまいります。



第9期福銀「次世代経営塾」の開催

福井県内企業の次世代経営者のみなさまが、日頃感じている悩みやニーズを解決に導き、自社経営のさらなる発展をめざす経営者の支援を目的とした福銀「次世代経営塾」を2019年5月から2020年2月にかけて開催し、本年度は21名が受講しました。

第一線で活躍する企業経営者を講師にお招きし、経営に不可欠な基本的要素を学ぶ場をご提供しています。また、卒業生(222名)を含めた受講者間および当行役職員との異業種交流による人脈形成にも寄与しています。



塾生同士の交流が深まり、リレーマラソンに参加しました。

▶ 福井の魅力向上に向けた取組み

ふくジェンヌ



福井県の観光活性化を目的に、2015年3月に福井県観光活性化プロジェクトチーム「ふくジェンヌ」を結成しました。年齢や居住地域、所属部署が異なる女性職員で構成された組織を横断したプロジェクトチームで、1年ごとにメンバーの交代を行い、2020年5月からは第6期メンバーが活動を行っています。

● オリジナルガイドブック「いこっさ! 福井」やInstagramでの情報発信

2016年から毎年オリジナルガイドブックを作成し、2020年3月までにvol.1～5を発刊しております。また、2017年9月からInstagramでの情報発信を開始し、2020年3月までに395件の投稿を行いました。



● 県外への情報発信の強化(ドキドキプラン部門受賞)

福井県が開催したアイデアコンテスト「"ワクワク・ドキドキ"新幹線開業アイデアコンテスト」で「ふくジェンヌによる女子旅@福井」が受賞しました。2023年の北陸新幹線福井敦賀開業に向け、今後も福井県の魅力を多くの方に知っていただける情報発信を積極的に行ってまいります。



ひろちゃんが行く! ふくい食巡り

「食を通じた地域活性化を目的に、2016年2月にフェイスブックページ「ひろちゃんが行く! ふくい食巡り」を開設しました。福井県の代表的な食材、福井県外で認知度の低い食材、福井県民も知らない逸品など、食に関する情報発信をしています。福井の事業者さまの「未来へのチャンス」創出をお手伝いしています。



WiL (Woman's inspiration Library)

「WiL」では、年間100回を超えるセミナーやワークショップを開催し、毎回多くの方々にご参加いただきました。2020年12月の新店オープン(予定)を機に、新店にその機能を継承し、引き続き「まちのにぎわい創出」と「地域のお客さまの豊かな生活の実現」をお手伝いしていきます。



▶ 社会福祉への貢献活動

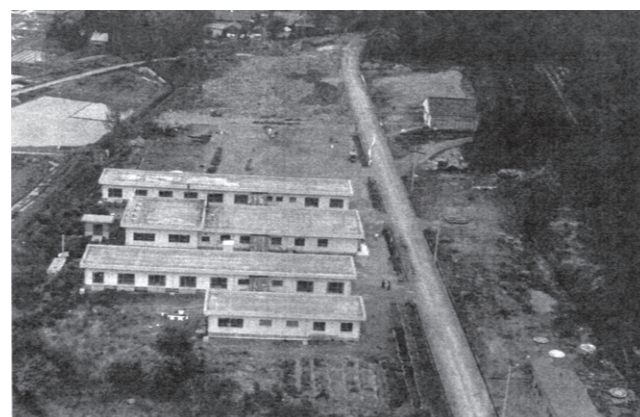
社会福祉法人かすみが丘学園

社会福祉法人かすみが丘学園(坂井市丸岡町)は、「ノーマライゼーション」(障がいのある人もない人も同じように当たり前のように生活できるような社会こそがノーマルな社会)を目指し、福井県内では初めての18歳以上の知的障がいを持った方々の施設として、昭和41年6月に開園、誕生しました。

当時、福井県内にはこのような方々の受入施設が無く、民間が主体となつての設立が必要であるとの気運が高まる中、ノーマライゼーションの趣旨に賛同した福井銀行市橋督頭取(当時)が、昭和40年9月に設立準備委員会の民間代表委員となり、学園の設立後には初代理事長に就任いたしました。以降現在に至るまで、役職員の派遣といった人的サポートを継続し、社会福祉法人を取り巻く環境や役割の変化の中で、学園の運営に関わってまいりました。

開園当初70名定員でスタートした施設も、各種事業を展開しながら、現在では障害者支援施設(定員125名)の他、グループホーム(8か所)、就労支援センター、生活介護事業所、相談支援事業所等で、地域に暮らす障がいを持った方々の生活や就労のための支援、社会への自立に向けた支援を行っています。

今後も福井銀行は、地域社会に生まれ、地域とともに歩む地域金融機関として、ともに生きる社会をより良いものにしていく取り組みを継続してまいります。



公益財団法人福井銀行教育福祉財団による助成事業

公益財団法人「福井銀行教育福祉財団」は、当行の役職員で構成していた「保堂会」という任意団体から、当行の創立100周年を契機として2000年3月に一般財団法人「保堂会教育福祉財団」に移行し、その後、2013年10月に公益財団法人への移行と同時に現在の名称に変更いたしました。

「保堂会」および「保堂会教育福祉財団」は、当行の創立者である市橋保治郎の創業理念と報恩感謝の精神を引き継ぎ広めていくために、青少年育成の場である学校教育に対する助成活動と社会福祉団体等に対する助成活動を設立以来実施しており、今後も継続して実施してまいります。

なお、2019年度の具体的な事業活動は、福井県内の小学校22校および社会福祉法人12法人に対する助成を実施いたしました。



2019年度助成実績

| | |
|----------------|-----------------|
| 学校教育団体 22校 | 4,133 千円 |
| 社会福祉団体 12法人 | 1,350 千円 |
| 合計 34団体 | 5,483 千円 |

2000年からの
累計額 **164,097**千円

▶ 教育への取組み

教育機関への講師派遣による金融経済講座の開催や、職場見学、当行職員との座談会、お仕事体験イベントへの参加等を通して、金融知識の普及や、地域の明日を担う人材の育成支援に努めております。

金融教育の支援

教育機関への講師派遣による金融経済講座の開催や、職場見学、当行職員との座談会等による金融知識の普及、啓蒙活動を通して、地域の明日を担う人材の育成のお手伝いに取り組んでおります。



大学での金融経済講座

大学などで、福井県経済の現状や、地域経済と金融機関の関わりなどについて解説する講義を行っております。地域経済の発展と、人材育成に資する教育研究を通じて地域社会への貢献に努めてまいります。



お仕事体験イベント「大和田キッズオブワンダー」への参加

子どもたちの未来や夢を応援する、「学び」と「お仕事体験」などをテーマにした体験型イベントに2017年より参加しております。3回目となる2019年10月のイベントでは、お金にまつわるクイズや電子マネーでのお買い物体験、小切手発行体験を行いました。



▶ 環境への取組み

環境に配慮した事業展開や環境・景観形成活動を通して、豊かな自然環境の保全に努めております。

「ふくぎんの森」づくり活動の実施

豊かな自然環境を次世代に残すため、2013年より敦賀市野坂山にて、「ふくぎんの森」づくり活動と称して役職員による森林整備活動を実施しております。

これまでに「もみじ（イロハモミジ）」を計310本植樹し、2019年度は下草刈りを実施しました。今後も継続して下草刈り等を行ってまいります。



マイボトル・マイバッグ利用促進運動

職員一人ひとりが日常生活の中でSDGsを考え、具体的な行動を起こす一環として、マイボトル・マイバッグの利用促進運動に取り組んでおります。

海洋プラスチック問題やマイボトル運動について、お客さまにも広く知っていただくパネル展を開催しました。



ペーパーレスへの取組み

個人ローン申込みや預り資産申込み受付のタブレット化、紙の通帳を発行しないWeb口座の導入、電子協議書の導入などにより、業務の迅速化や生産性の向上を図るとともに紙使用量を削減し、環境負荷の軽減に取り組んでおります。

また、スキャナの活用により、文書の電子化を進めたり、会議や研修もタブレットを利用することによりペーパーレスの強化にも努めております。



▶ 歴史・文化振興への取組み

地域社会の一員として、地域行事やボランティア活動への積極的な参加を通して、地域の歴史や文化の振興を図り、地域社会の活性化に努めております。

地域行事・ボランティアへの積極的な参加



あわら湯かけまつり(あわら市)



ふくい祇園まつり(福井市)



夷子大黒綱引き(敦賀市)



福井フェニックスまつり民謡大会(福井市)



敦賀まつり(敦賀市)



めがねのまちさばえ感謝祭(鯖江市)



中道アート(鯖江市)



三國湊 帯のまち流し(坂井市)



若狭・三方五湖ツーデーマーチ(若狭町)

ロビー展の開催

各営業店では、地元の産業や文化・歴史の紹介や地域のお客さまの趣味を生かした作品展など様々なロビー展を開催しております。



秋の絵 園児絵画展



硝子ランプ展



「認知症を正しく理解しよう」パネル展



日本画展



地元陶芸家・陶房紹介作品展



写真展

▶ お客さま満足への取り組み

福井銀行では、全職員が「地域のお客さまのライフステージに応じて、常にご満足いただける解決策を提供する」ことを実践していくことが必要であり、また、解決策の提供を通じて、お客さまとの間で確固たる信頼関係を構築していくことが重要であると考えております。

見守り活動への参加

地域金融機関として地域に暮らす人々の豊かな生活を実現すべく、福井県内の営業店のある15市町と提携やネットワークを繋ぎました。今後も、窓口や渉外活動を通し地域の見守りを行うとともに、支援が必要なお客さまやそのご家族に寄り添った対応を心掛けてまいります。



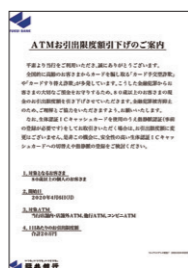
認知症サポーター養成

認知症に対する理解を深め、認知症の方やそのご家族が安心して暮らせる地域社会を作ることは地域金融機関としての役割だと考え、営業店やエリア単位で「認知症サポーター養成講座」を受講し、サポーターの養成に取り組んでおります。



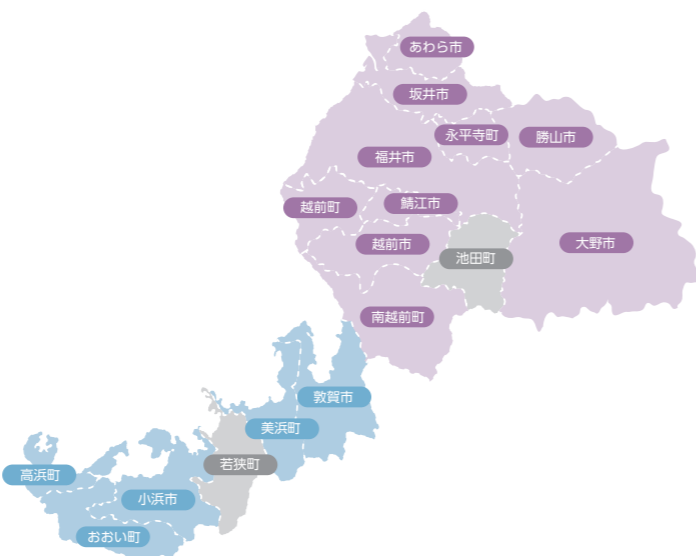
80歳以上のお客さまのATMお引出し限度額の引下げ

全国的に高齢のお客さまからカードを騙し取る「カード手交型詐欺」や「カードすり替え詐欺」が多発しており、このような金融犯罪からお客さまの大切なご預金をお守りするため、ATMでの当行カードによる現金のお引出し限度額を20万円に引下げました。



安心してご利用いただくための店舗づくり

すべてのお客さまに安心してご来店いただけるよう、店舗のバリアフリー化を進めております。また、高齢者疑似体験や車いす体験を通して、お客さまに寄り添った心配りへの気づきの場を創出しております。



提携・ネットワークを結んだ先
(15市町、16団体)

| 地公体 | 名称 |
|------|----------------------------------|
| 福井市 | 福井市あんしん見守りネットワーク |
| 永平寺町 | 永平寺町徘徊高齢者等SOSネットワーク |
| 鯖江市 | 鯖江市地域見守り活動に関する協定 |
| 越前町 | 徘徊高齢者等SOSネットワーク |
| 越前市 | 地域包括協定 |
| 南越前町 | 南越前町高齢者地域見守りネットワーク |
| 大野市 | 越前おおの結の見守り活動に関する協定 |
| 勝山市 | 地域見守り活動協力に関する協定 |
| 坂井市 | 坂井市高齢者等徘徊SOSネットワーク |
| あわら市 | あわら市安心生活ネットワーク事業 |
| 敦賀市 | 敦賀市地域見守り活動に関する協定 敦賀市見守りネットワーク |
| 美浜町 | 美浜町認知症高齢者等徘徊SOSネットワーク |
| 小浜市 | 小浜市地域見守り活動協力に関する協定 |
| おおい町 | おおい町高齢者等見守りネットワーク |
| 高浜町 | 地域見守り協定 |

アンケート実施

お客さまが「特殊詐欺」に遭わないように、アンケートをお願いしています。お客さまとの会話を通じて、特殊詐欺の未然防止の態勢をとっています。



コミュニケーションボード・指差しボード・筆談ボードの設置

話し言葉や文字によるコミュニケーションに不安のあるお客さまや、聴覚に障がいをお持ちのお客さまにも、安心してご相談やお取引いただけるよう、コミュニケーションボード・指差しボード・筆談ボードを全営業店に設置しております。また、タブレット端末にも取り込むことで、訪問先でも利用できるようになりました。



▶ 地域やお客さまに対する積極的な情報発信

地域やお客さまのお役に立つ情報やノウハウを、各種セミナーやホームページ・SNSを通じて発信してまいります。

セミナー開催による情報提供

お客さまのライフステージに応じたセミナーを開催し、当行のノウハウを活かした各種情報の提供に取り組んでおります。

● ふくぎんフレッシューズセミナー2019

2019年4月に新社会人となられた方を対象として、「ふくぎんフレッシューズセミナー」を開催しました。2019年度は138社、計679名の新社会人のみなさまに参加いただきました。

● 家族信託セミナー

認知症や高度障害で意思判断能力が低下すると、「自分の財産が自分のために活用できなくなる」という大きなリスクが生じます。このリスクへの対策として「信託」が注目を集め始めています。新時代の財産管理・承継の仕組みである「信託」をお客さまにわかりやすく解説するセミナーを開催しました。

● 資産運用セミナー

お客さまの資産運用ニーズにお応えし、資産形成のお手伝いをさせていただくための情報提供の場として「資産運用セミナー」を開催しております。WEB会議システムを通して全体的に行うものや、「マネーカフェセミナー」と題して少人数でリラックスしてご参加いただけるものまで、お客さまのニーズに応じたテーマ・内容で開催しております。

● SDGsセミナー

福井県内の事業者さま向けに、「SDGsセミナー」を開催しました。SDGsは世界共通のゴールと認識され、ビジネス業界でも関心が高まってきています。お客さまの持続可能な事業活動に繋がっていくことを目的とし、SDGsの概要から中小企業の取組事例やビジネスチャンス拡大の可能性について、わかりやすくお伝えしました。

「福井県内企業景気動向調査」の実施

四半期毎に「福井県内企業景気動向調査」を実施し公表しております。福井県内企業のみなさまにアンケート調査を行うことにより、景気動向（県内企業の現在の経営環境や今後の見通し）について情報提供いただき、共有することで、福井県内企業のみなさまの経営に役立てていただくことを目的としております。調査結果につきましては、当行のホームページよりご確認ください。

情報誌「福銀ジャーナル」の発刊

地域の経済情報やトピックス・統計資料、「福井県内企業景気動向調査」の結果などを盛り込んだ「福銀ジャーナル」を四半期毎に発刊し、情報発信に努めております。



SNSを活用した情報発信

f 福井銀行
キャンペーンやセミナー、イベントなどの情報や福井銀行をもっと便利なおトクにつかっただけ方法などお客さまに役立つ情報をお届けします。



f ヒロちゃんが行く! ふくい食巡り
福井県の代表的な食材、福井県外に認知度の低い食材、福井県民も知らない隠れた逸品、福井の匠の技が生み出す食器、食に関連する文化、観光に関する情報を継続して発信しています。



LINE 福井銀行
ふくちゃんがオトクな情報や便利なサービスのご案内など、うれしい情報をお届けします。



Instagram ぶくジェンヌのいごっさ! 福井
福井県観光活性化プロジェクトチーム「ぶくジェンヌ」が、福井県のグルメ、絶景、季節の見どころなどをお届けします。ガイドブックには載っていない旬な情報も!



YouTube 福井銀行
福井銀行のテレビCMなどの動画をご覧ください。



コーポレート・ガバナンス

役員



取締役兼代表執行役頭取
林 正博

2015年6月
取締役兼代表執行役頭取(現職)



取締役兼代表執行役常務
湯浅 徹

2020年5月
取締役兼代表執行役常務営業支援本部長(現職)



取締役兼代表執行役常務
長谷川 英一

2020年6月
取締役兼代表執行役常務企画本部長(現職)



取締役兼常務執行役
渡辺 統

2020年6月
取締役兼常務執行役ALM本部長(現職)



取締役兼執行役
佐竹 範之

2019年6月
取締役兼執行役営業支援副本部長
融資支援グループマネージャー(現職)



取締役
前田 英之

2019年6月
取締役(現職)



取締役(社外)
内上 和博

2014年6月
福井銀行取締役(現職)

<重要な兼務の状況>
弁護士



取締役(社外)
南保 勝

2015年6月
福井銀行取締役(現職)

<重要な兼務の状況>
公立大学法人福井県立大学地域経済研究所長・
教授、博士(経済学)
フクビ化学工業株式会社社外取締役



取締役(社外)
三屋 裕子

2018年6月
福井銀行取締役(現職)

<重要な兼務の状況>
公益財団法人日本バスケットボール協会代表理事
株式会社SORA代表取締役
ENEOSホールディングス株式会社社外取締役
株式会社デンソー社外取締役



執行役
吉田 正武

2019年6月
執行役本店エリア統括店長兼本店営業部長(現職)



執行役
岡田 伸

2020年6月
執行役ALM副本部長リスク統括グループ
マネージャー(現職)

コーポレート・ガバナンス体制一覧

| | | |
|--------|---------------|---------------|
| 組織形態 | 指名委員会等設置会社 | |
| 取締役の人数 | 9名(うち社外取締役3名) | |
| 取締役の任期 | 1年(社外取締役も同様) | |
| 取締役会 | 構成 | 9名(うち社外取締役3名) |
| | 2019年度開催数 | 16回 |
| 経営会議 | 構成 | 8名 |
| | 2019年度開催数 | 55回 |
| 指名委員会 | 委員長 | 社外取締役 |
| | 構成 | 3名(うち社外取締役2名) |
| | 2019年度開催数 | 3回 |
| 報酬委員会 | 委員長 | 社外取締役 |
| | 構成 | 3名(うち社外取締役2名) |
| | 2019年度開催数 | 6回 |
| 監査委員会 | 委員長 | 社外取締役 |
| | 構成 | 3名(うち社外取締役2名) |
| | 2019年度開催数 | 14回 |

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当行は、2007年6月より組織形態を「委員会設置会社(現在の指名委員会等設置会社)」に移行し、その特徴である「業務執行と監督の分離によるガバナンス態勢の強化」「業務執行の決定権限の委任による業務執行のスピードアップ」「社外取締役が過半数を占める三委員会の設置による経営の透明性向上(当行では三委員会とも社外取締役が委員長を務めております)」を実現するとともに、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

- 当行は、株主のみならずの権利を尊重するとともに、株主のみならずの平等性の確保に努めます。
- 当行は、株主のみならずを含むステークホルダーの利益を考慮するとともに、ステークホルダーとの適切な協働に努めます。
- 当行は、非財務情報を含む会社情報を適切に開示するとともに、その会社情報の透明性の確保に努めます。
- 当行は、独立社外取締役が中心的な役割を担う体制を構築するとともに、その体制を活かして、取締役会による業務執行の監督機能の実効性向上に努めます。
- 当行は、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、株主のみならずの建設的な対話の実施に努めます。

指名委員会等設置会社

業務執行と監督の分離によるガバナンス態勢の強化

取締役会については、取締役9名で構成されており、経営方針などの重要事項の決定、取締役会が選任した執行役等の職務の執行の監督を行います。このうち社外取締役は3名選任されております。

業務執行の決定権限の委任による業務執行のスピードアップ

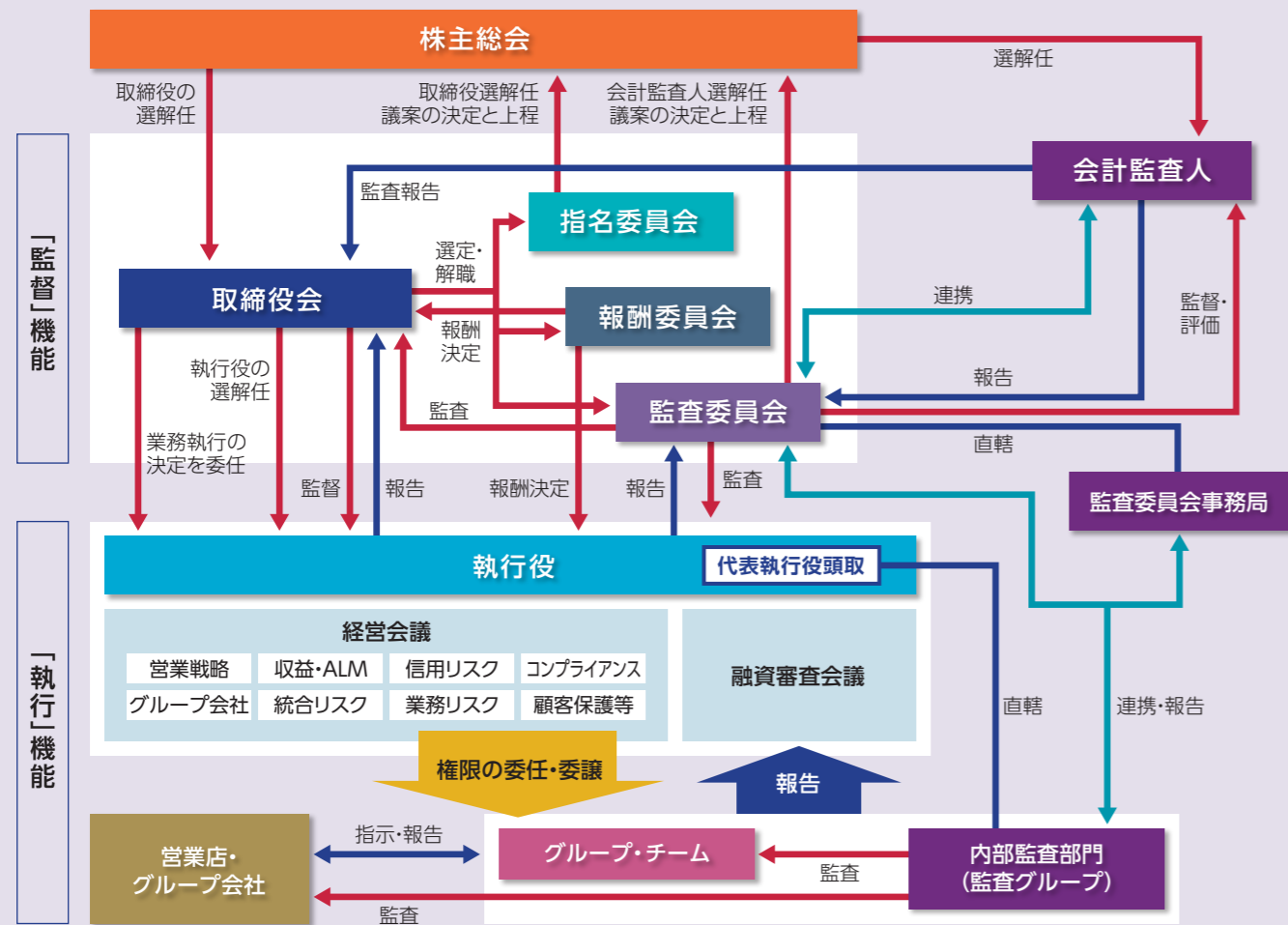
取締役会は執行役を選任し、執行役は取締役会から委任を受けた事項についての業務執行の決定及び業務の執行を行っております。このうち、重要事項については、執行役の合議による決議機関である各種会議で決定されます。取締役会から執行役に業務執行の決定権限が大幅に委任されることにより、迅速な業務執行が可能となっております。

社外取締役が過半数を占める三委員会の設置による

経営の透明性向上

法令に基づき、指名委員会、報酬委員会、監査委員会を設置しております。これら三委員会は、それぞれ3名の取締役から構成されておりますが、いずれの委員会においても、弁護士や博士(経済学)、企業経営者として高い専門性を有する社外取締役が過半数を占め、かつ委員長を務めており、経営の透明性が一層図られております。

コーポレート・ガバナンス体制の概要



取締役会

取締役9名(男性8名・女性1名)、うち社外取締役3名(男性2名、女性1名)により構成されており、取締役会の開催・決議方法・付議基準等を定めた取締役会規程に従い、経営上の重要事項に係る意思決定と執行状況の監督機能が十分に確保できるよう適切な運営を行っております。特に、社外取締役については、独立した立場から高い監督機能の発揮を求めています。

三委員会

| | 主な役割 |
|-------|---|
| 指名委員会 | 取締役3名(うち社外取締役2名、委員長は社外取締役)により構成され、指名委員会規程に従い、株主総会に提出する取締役の選任・解任に関する議案の内容等を決議しております。2019年度は3回開催しております。 |
| 報酬委員会 | 取締役3名(うち社外取締役2名、委員長は社外取締役)により構成され、報酬委員会規程に従い、取締役及び執行役が受ける個人別の報酬等の内容の決定に関する方針並びに個人別の報酬等の内容を決議しております。2019年度は6回開催しております。 |
| 監査委員会 | 取締役3名(うち社外取締役2名、委員長は社外取締役)により構成され、監査委員会規程に従い、監査の方針、監査計画、株主総会に提出する会計監査人の選解任議案等の事項について決議しております。2019年度は14回開催しております。 |

社外取締役の役割や機能

当行は、指名委員会等設置会社として、指名委員会、報酬委員会、監査委員会の三委員会を設置しており、各委員会の構成員は社外取締役が過半数を占め、かつ委員長を務めております。

社外取締役は各委員会の構成員としての職務を通じて企業統治体制構築に努めております。

また、取締役会においては、経営上の重要事項に係る意思決定と執行状況に関して、独立した立場から監督機能を発揮し取締役会全体の実効性の向上をはかっております。その監督にあたっては、株主のみならずははじめとした社外ステークホルダーの視点から「当行の持続的成長」を検討・判断の観点に加え意見を表明しております。

| | 氏名 | 専門性 | 分野 | 2019年取締役会出席率 | 三委員会 |
|-------|-------|-------|------|--------------|------------------------|
| 社外取締役 | 内上 和博 | 弁護士 | 企業法務 | 100% | 報酬委員会100% 監査委員会100% |
| 社外取締役 | 南保 勝 | 博士 | 経済学 | 93.33% | 指名委員会100% 監査委員会100% |
| 社外取締役 | 三屋 裕子 | 企業経営者 | 企業経営 | 86.66% | 指名委員会100% 報酬委員会100% |

取締役会の実効性の分析・評価の実施

2020年3月、「社外取締役連絡会」による分析・評価結果及び提言事項に基づき、取締役会において実効性の分析・最終評価を実施するとともに、取締役会の実効性の一層の向上に向けて取り組む事項を議論・確認いたしました。

総評

当行の取締役会は、当行の規模に即した員数(執行役兼務取締役5名、取締役4名(うち社外取締役3名)、執行役2名)が確保され、社外取締役を含め自由な意見・提言による議論が行われております。また、指名委員会等設置会社の特徴である、執行役による業務執行機能と、社外取締役を中心とした監督機能は有効に機能しております。以上により、取締役会の実効性は確保されているものと判断・評価いたしました。

ただし、株主や投資家などのステークホルダーをはじめとして、地域社会全体に対して、当行の伝えたい情報が伝えきれているかという点については強化・改善していく余地があることから、今後も引き続き重点的に取り組んでまいります。

2019年度の取組み

取締役会の実効性向上に向けて、特に、以下の事項に取り組ましました。

- ①取締役会における議論のさらなる強化および高度化について
取締役会における、報告・説明事項の絞り込み、事前の社外取締役への説明の充実等により、議論に集中して取り組める体制に向けた改善がなされております。
また、当行の抱える喫緊の課題について、取締役会において重点的に議論がなされております。
- ②株主・お客さまへの情報発信の強化・継続実施
対面での情報発信として、統合報告書を活用したお客さまへの訪問活動や、個人投資家向け会社説明会、機関投資家との個別ミーティング、株主総会、全役職員によるSDGs/バッジ着用など、非対面での情報発信としてホームページや、SNS、地元新聞社等を活用した広報などにより、積極的に当行の情報発信を行っております。

今後の取組み

引き続き、下記の事項に取り組むことで、当行の取締役会の実効性を更に高めてまいります。

- ①取締役(会)におけるIT技術を活用したデジタル化(デジタルライゼーション)に関する知見の高度化
金融業界において、RPA、AI、クラウド、API等のIT技術の高度化に伴って、今後これらを活用したデジタル化が更に進展していくことが予想されます。そのような環境の中、適正な経営判断を行っていく上で、取締役(会)において、デジタルライゼーションに関する知見が益々重要になってまいります。取締役(会)における、デジタルライゼーションに関する知見の強化および高度化を図ることによって、当行の安定的な成長に繋げてまいります。
- ②株主・お客さま・地域への情報発信・コミュニケーションの強化・継続実施
株主・お客さま・地域への積極的かつ継続的な情報発信とコミュニケーションを通して、当行の持続的な成長や中長期的な企業価値の向上を目指してまいります。